



文部省科学研究費創成的基礎研究
現代イスラーム世界の動態的研究

イスラーム地域研究

ニューズレター

No. 4 (2000)

1. 折り返し点を過ぎた「イスラーム地域研究」
研究班2 代表 私市正年
2. 各班の研究計画
3. 国際交流について
4. 広報と研究成果の公開について
5. 研究組織
6. 研究分担者名簿
7. 日本学術振興会特別研究員名簿
8. 研究会活動・刊行物一覧

折り返し点を過ぎた「イスラーム地域研究」—三つの問題意識の再確認—

研究班2 代表 私市正年

はじめに

1997年4月から始まった「イスラーム地域研究」プロジェクトは折り返し点を過ぎ、残り2年間で個別の研究成果を積み上げつつ、それらを総合する段階へと入った。すでにワーキングペーパー・シリーズは19号刊行され、英文叢書の第1巻 *Slave Elites in the Middle East and Africa* が出版された。他に各研究班単位でもワークショップのプロシーディングや報告書も刊行されている。プロジェクト期間のちょうど中間にあたる昨年の10月には京都で国際会議 *Beyond the Border: A New Framework for Understanding the Dynamism of Muslim Societies* が開催され、10名程の国外招聘研究者たちを交えて活発な議論が展開された。学術的な交流という点だけでなく、プロジェクトの意義を国際的に広める上でも大きな成果があった。また各研究班、研究グループの活動も1、2年目のようなもたつきもなく軌道に乗っているようである。

しかしこれでもって「イスラーム地域研究」プロジェクトが、2年後には21世紀に指針を示すような創造的成果をあげて終了するという保証はない。私たちは「イスラーム地域研究」の新天地を切り開くという壮大な夢を抱いてプロジェクトを発足させた。そこには少なくとも次の三つの問題意識があっ

たし、プロジェクト参加者はそれを共有しているはずである。私が「創造的成果をあげて終了するという保証はない」と述べたのは、この問題意識の再確認がプロジェクトの成否に深く関わっているからである。では問題意識とは何であったか？

三つの問題意識

第一は、第三世界における民主化の行き詰まり、人権や貧困の諸問題の深刻化、環境破壊など西欧近代文明がさまざまな限界を露呈するようになって、イスラーム文明がそのオルタナティブになりうるか否か、という大きな問題意識である。もちろん私たちはこれへの明確な回答を迫られているわけではないし、そうしようと思っても出来ないだろう。しかし、イスラーム地域研究に多額の科学研究費が助成されるのも、またテレビや新聞でしばしば大きな特集が組まれるのも（NHK や朝日新聞では昨年から今年にかけてイスラーム特集が組まれ、大きな反響を呼んだ）、日本の社会の中にイスラームの文明や政治・社会に非常に強い関心があるからであり、それはこうした問題意識の反映と見て間違いない。本プロジェクトの発足は一般社会の中にあるこのような関心や問題意識と無縁であるはずがない。

今年の3月に私はエジプト、タイ、インドネシアの3か国の調査旅行に出かけた。「イスラーム地域研究」の研究班2の研究テーマである「イスラーム地域の民衆運動と民主化」の枠内での出張であったが、3か国をまわって印象的であったことが一つある。それはイスラーム教徒たちの元気さ、明るい顔であった。確かに、よく見れば彼らの居住地はスラムであったり、貧困や不衛生など劣悪な生活環境であったりする。しかし、そこから感じられた雰囲気は、欧米や日本の都市スラム、農村、若者たちの表情に見られるような暗澹たる様子、そこはかかない不安に隠れた退廃的華やかさとは明らかに異なるものであった。

今、私たちは多様なディシプリンの研究者たちが集まり、イスラームを対象とした共同研究を実施している。共同研究を単なる個別研究の寄せ集めで終わらせないためには、プロジェクト参加者たちが問題意識を共有し、成果に相互影響をもたらすことが不可欠である。私たちの「イスラーム地域研究」は文明の問題を意識した共同研究として出発したことをここでもう一度確認しておきたい。

第二の問題意識は、地域研究の中に歴史研究をいかにとり入れるか、歴史家が中心となることで、どのような新しい地域研究の方法論を組み立てるか、であった。この問題については、私はすでに雑誌『ソフィア』（上智大学、184号、1997年）において拙稿「新しい地域研究論の模索」を發表した。これは、「イスラーム地域研究」プロジェクトが開始される直前に發表されたもので、プロジェクトが具体的に展開するようになった後の状況はこの論文に反映されていない。私がこの論文の中で主張しようとした論点は、（1）主として現代の社会科学系の研究者たちによって実践されてきた地域研究の中に、人文科学系の研究者、とりわけ歴史学者を参加させることの意義、（2）歴史学者が地域研究の中に積極的に飛び込むことによって歴史学の枠組みを再構成する必要性、（3）地域研究を組織するときの触媒的存在（共同研究の世話役的なミスター X）の役割の重要性と困難さ、である。私の主張は今でも基本的には変わっていないが、3年間の研究プロジェクトの経験を踏まえて、歴史家が中心となった地域研究

とは何かについて自分の考えを整理してみたい。

先の論文で私は地域研究の視点から見た時、個々の研究テーマにはプライオリティーに差異があると述べ、歴史家（前近代史が専門であっても）は現代的に重要な課題に積極的に取り組むべきであると主張した。その例として民主化や環境問題などをあげた。これらの諸問題は現代社会に固有の問題のように見えるが、史料を実証的に分析したり、歴史的背景や地域の風土、価値観などを丹念に考察する研究を欠いてしまうと、民主化を阻害または促進する根本的な問題点、環境保全と地域住民との間の利害関係の本質的矛盾などは解明されない。歴史家は勇気をもって、一見すると場違いと思われる分野に飛び込んで行くべきだし、そうしないとこれらの「現代的」課題は本質的、根本的な問題がいつまでたっても解明されないままだろう。国家の論理、国際関係の力学、支配的な価値観（多くは欧米、日本などの先進諸国）、状況対応的視点などによって説明され続けるだろう。

「イスラーム地域研究」の3年間の研究活動を見ていて、未だ歴史研究者たちはこの問題に慎重過ぎないだろうか。確かに、実証史学の基本から言えば、前近代史研究者が民主化問題や環境問題にまで研究分野を広げていくのは無謀かもしれない。だからと言っていつまでも現実世界の諸問題から離れた出家遁世的な研究を続けることは、歴史研究そのものを自閉的にするだけでなく、地域研究の限界や欠陥を克服することにもならないだろう。実は、歴史研究者が大きな貢献を期待される現代的課題は他にもたくさんある。貧困や飢餓の問題、人種・性の差別や人権問題、死と病の問題、などなど。地域研究に関わろうとする歴史家は現代社会への切実感をもってテーマを選択し、その研究を通じて現代的諸問題への積極的な発言をすべきだろう。歴史学研究と地域研究が無理なく協力関係を結びうるのはまさにこの点にあるからである。

第三の問題意識は、地域研究における基礎研究の重視という考え方である。「イスラーム地域研究」の発足時、代表者の佐藤次高は「私たちの地域研究は、1枚の古文書を読み解くことも評価するような研究をめざす」という趣旨の発言をした。これは、私なりに解釈すれば「地域研究における時間の概念の重視。地域研究は文字通りの現代研究ではなく、現代を理解するための研究である」という意味になる。私もこの考えに基本的に賛成であるが、それではこの考えをいかにして実践に結びつけていくのか。

実はこの問題は二つの面で大きな障碍を抱えている。一つは、現代研究者たち、とりわけ政治や経済、国際関係を専門とする研究者たちの理解を得られるか、ということである。中東や東南アジアの政治情勢を分析している研究者たちに、中世の古文書を読解する仕事の意義を理解させ、さらに彼らとの共同研究にまで発展させることは容易ではない。この問題は3年間たっても、未だ解決されていないと思える。二つめは、いわばスポンサーの政府や財団が現代的課題を解明するために、基礎研究をどれだけ重視し、評価してくれるか、という問題である。大学や研究機関が学生数の減少や社会の構造的変化のため、目に見える、即効性のある成果を要求するとすれば、基礎研究が先細りになることは必然である。現代社会を理解するために中世の古文書にまで遡って研究することは、まさに地域研究における基礎研究に他ならない。私はこのことの重要性を認識し、今年から研究班2の中に「理性と宗教」という小さな研究グループを発足させることにした。これは、現代のイスラーム社会やイスラーム諸地域における、

民主化問題や人権問題、政治体制や家族のあり方などを原理的に考えるためである。現代政治の考察には、イスラームにおける自由、個人、理性、暴力、性（男性性・女性性）などを思想、哲学などのレベルにまで降りて根源的に問い直してみる必要があるだろう。基礎研究を重視する地域研究を成功させるためには、文字通りの現代研究者たちの協力がぜひとも必要である。私はあえてお願いしておきたいと思う。研究会を実施するにせよ、研究グループを結成するにせよ、現代研究者たちが意識的に歴史学、哲学、考古学などの分野の研究者たちを取り込み、彼らとの比較研究、共同研究を実践して欲しい。その仕掛けと場を意図的に作って欲しい。例えば現代アラブの政治権力を研究するとき、アッバース朝やマムルーク朝の研究者をグループに誘い、あるいは無理矢理にでも引き込み、共同研究のフォーラムを作って欲しい。このような共同研究を実施した場合、おそらく互いに違和感、居心地の悪さを最初は（あるいは最後まで）持つかもしれない。しかし、地域研究は、異なった地域、時代、ディシプリンの専門家たちの共同研究なのだから、違和感、居心地の悪さはつきものなのである。そうしない限り、個別のディシプリンに基づく研究の成果とさまざまなディシプリンの共同研究に基づく地域研究の成果との差違は出てこないだろう。

おわりにー「地域研究的衝動」の共有に向けて

以上の三つの問題意識が共有されたとき、「イスラーム地域研究」プロジェクトに関わる人々はどんなことを意識するだろうか。もちろん、その一つはイスラーム文明の歴史的厚みと現代的活力を再認識することである。しかし、それ以上に重要なことは、「イスラームの文明史的視点」から未来へのメッセージを発信したいという意識ー理屈や論理ではなくーがメンバーの中に生まれることであろう。私はこうした意識やその場に生まれる雰囲気や「地域研究的衝動」とよびたい。それは、次の三つの要素から成り立っている。第一に「地域」を愛し、「地域」にこだわり、強者や大国の論理ではなく、小文化、地方社会の研究を实践する者の「志」である。第二にそうした研究者の研究活動や成果に接する者が感じる「感動」である。第三にそのような研究を实践する者及びそれに共感する者たちが作る場に生まれる「連帯意識」である。1990年代に入って日本の社会には「オウム」事件をはじめ想像を絶する事件が次々に起こり、また欧米でも類似の事件が起こっている。こうした現象は、少なくともマクロなレベルで見れば、西欧近代文明の負の遺産と見てよいだろう。私たちに課せられた期待ーその重要な一つーは、21世紀の人類がどのような文明を築いていくべきかを真剣に議論することである。そのためには、「イスラーム地域研究」プロジェクトに関わる人々の中に、「地域研究的衝動」が共有されなければならないだろう。

2. 各班の研究計画

総括班

研究拠点：東京大学大学院人文社会系研究科（代表者 佐藤次高）

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学文学部アネックス

「イスラーム地域研究」総括班事務局

TEL 03-5841-2687（直通） FAX 03-5841-2686

e-mail: i-office@l.u-tokyo.ac.jp

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/IAS/>

1. 主な活動計画

われわれの「イスラーム地域研究」プロジェクトは、総括班以下「イスラームの思想と政治」・「イスラームの社会と経済」・「イスラームと民族・地域性」・「地理情報システムによるイスラーム地域研究」・「イスラームの歴史と文化」・「イスラーム関係史料の収集と研究」を研究課題とする6つの研究班から構成されている。これらの研究班は個々にその研究課題を追求するが、それらは本来密接に関連するものであり、5年間を通しての6研究班の連携はもとより、その成果も有機的に統合されなければならない。総括班の役割は、このような研究全体の調整と統合の役割を果たすことにある。今年度の主な活動計画として、総括班は次の6点を考えている。

- (1) 総括班はすべての研究班・グループの活動を視野に収め、研究全体の調整と統合をはかるために総括班会議と全体集会を開催する。今年の全体集会は、「歴史としての湾岸戦争」を7月8日（土）の午後、東京大学本郷キャンパスで開催する予定である。
- (2) 和文と英文による「イスラーム地域研究叢書」は、本プロジェクトの具体的な研究成果の中核をなすものである。過去3年間の活動をふまえて確定した各巻のテーマと構成に従って、今後の2年間を使って、より一層密度の濃い報告と討議をあらゆる研究会において積み重ねていきたい。そのさい、方法としては「比較の手法」と「歴史の視点」とを重視しながら、現代イスラーム世界の動態に見合った研究の総合性を心がけたい。英文叢書の第1巻はすでに刊行したので、今年は後続の数巻を刊行することを目標とする。
- (3) 総括班は、これまでに実施した地域ごとの研究および複数地域の組み合わせによる研究の成果をふまえて、地域間の比較研究をさらに深めるように研究をリードする。「比較の手法」と「歴史の視点」を重視することによって、各地域研究の特色と問題点が明

らかになるだろう。総括班自らこれを実践するために、今年の8月初旬オスロで開催される第19回国際歴史学会議で、Muslim Societies over the Centuries: Symbiosis and Conflict in Comparative Aspects をテーマとして単独のセッションを主催する。

(4) 最新のコンピュータ技術を用いた新しい地域研究の手法の開発は、過去3年間の活動によって準備が整い、ようやくいくつかのプロジェクトが軌道に乗ってきたといえる。今後は、総括班が個々のプロジェクトを調整・統合しながら、その進展を全面的に支援していきたい。

(5) 来年度2001年10月5-8日に予定されている国際シンポジウム The Dynamism of Muslim Societies: Toward New Horizons in Islamic Area Studies は、本研究プロジェクトの成果を内外に問うとともに、新たな研究課題を提起する重要な会議であり、総括班を中心として鋭意企画と準備を進める。

(6) 「再考・アラブと日本 アラビア石油問題をきっかけに」研究会の開設
＜研究会趣旨＞研究会リーダー：水島 多喜男（研究協力者）

1957年から1958年にかけて、日本企業は、初の海外原油採掘権をサウジアラビアとクウェートの間に設定された中立地帯の沖合に獲得した。当該地域の性格から、採掘協定はサウジアラビア、クウェートそれぞれと日本企業との間で結ばれる形がとられたが、日本側契約者は現地での原油開発を担うアラビア石油に一本化され、探査が開始された。1960年に油田開発は成功し、以後、アラビア石油からの原油供給は、日本が安定した原油供給を確保するうえで大きな役割を果たしてきた。しかし、サウジアラビアとの協定は2000年2月末に終了し、現在は更に、クウェートとの協定更新をめぐる交渉が控えている。

国家レベルでの交流という点から見た場合、油田開発の成功後のこの40年間を短いとするか長いとするかについて、論者の見解は分かれるところであろう。しかし、アラビア石油の操業をきっかけとする日本とサウジアラビア並びにクウェート両国との交流が、単なる経済上の関係を越えて、日本における中東理解に貴重な機会と経験を提供してきたことについては、だれもこれを否定することはできない。それゆえ、今回のアラビア石油の採掘協定更新をめぐる一連の経過は、産業・行政の直接担当者にとどまることなく、中東関係者の広範な層においても大きな関心を引き起こすことになった。

今回、サウジアラビアとの交渉においては採掘権の更新が認められずに終わったが、このような事態が、サウジアラビア、クウェート両国と日本との間にこれまで育まれてきた交流と相互理解の蓄積に、水を差すようなことがあってはならないであろう。

現在を未来につなげる作業とは、まず、未来からの視点に耐えられるように現在の姿

を整えておくことであろう。それは、この 40 年間のアラビア石油の活動を媒介として、サウジアラビア、クウェート両国と日本との間に形成された一連の交流を改めて整理し、それらの持つ意味を理解する努力を続けることから始まるのではないだろうか。本研究会が担おうとするものは、まさにそのような作業である。

作業期間は今後 2 年間で予定している。1 年目は、アラビア石油に関連するあらゆる分野について、インタビューや海外での調査を含め、可能なかぎり幅広く資料を収集することに重点を置く予定である。2 年目には、資料の蓄積に応じて逐次取りまとめの作業に重点を移して行く予定である。

そして資料の収集、整理に際しては、工学、技術分野からの視点も取り入れるとともに、日本側の視点、産油国側の視点、大手国際石油産業側の視点を対比できるように配慮しながら作業を進めたいと考えている。そしてそのような対比を可能にする資料として、各国のジャーナリズムにおける報道のされ方にも着目したいと考えている。また、取りまとめ作業では、最終的な成果報告とは別に、資料集等の形で残すことがふさわしいものについては、資料提供者の許可を得てこれを作成したいと考えている。

2. 海外派遣・招聘計画

a. 海外派遣

- ・小松久男（研究分担者）

派遣期間および派遣地：2000 年 5 月 25 日～29 日、パリ

目的：「イスラーム地域研究」による国際ワークショップの企画と英文叢書の編集について CNRS の研究協力者と打ち合わせを行う。

- ・佐藤次高、小松久男、中里成章、佐藤健太郎（研究協力者・東京大学大学院学生）

派遣期間および派遣地：2000 年 8 月 7 日～11 日、オスロ

目的：第 19 回国際歴史会議に出席、報告、総合コメント等を行う。

b. 招聘

- ・Manuela MARIN (Instituto de Filologia 教授)

Abudel-Karim RAFEQ (Damascus Univ. 教授)

Felice DASSETTO (Université Catholique du Louvain 教授)

Qasim Abuduh QASIM (Zaqaziq Univ. 教授)

Mushirul HASAN (Jamia Millia Univ. 教授)

Michael FRIEDRICH (Bamberg Univ. Research Fellow) 以上 6 名

招聘期間および招聘地：2000年8月7日～11日、オスロ

目的：第19回国際歴史会議に招聘する。

・ Bert FRAGNER (ドイツ・バンベルク大学教授)

招聘期間および招聘地：2000年9月25日～10月9日、東京・京都

目的：ドイツにおけるイスラーム地域研究との共同研究に関する打ち合わせと、東方イスラーム世界史および現代中央アジアの動向に関する研究報告を行う。

研究班1「イスラームの思想と政治」

研究拠点：東京大学大学院人文社会系研究科（代表者 小松久男）

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学文学部アネックス

「イスラーム地域研究」第1班事務局

TEL 03-5841-2687 (直通) FAX 03-5841-2686

e-mail: ias-hiro@l.u-tokyo.ac.jp

<http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/~asia/renkan/ias/2000/index.htm>

1. 主な研究テーマと活動

現代イスラーム世界の動態の中でもひととき目立つのは、イスラーム復興の展開である。それはたんなる思想潮流にとどまらず、政治・社会運動として現れているところに特徴があり、さらにイスラーム諸国の中に限らず、世界に広がるイスラーム地域の各地において政治・社会的な問題を提起している。それはまたイスラーム思想の豊かな伝統を背景にするとともに、現代のイスラーム地域にみられる幅広いイスラーム覚醒をその基盤としている。21世紀の世界においてイスラーム地域はいかなる役割を果たし、またどのような意味をもつのか。この重要な問いに答えるには、現代のイスラーム復興の諸問題を総合的に理解することが必要であろう。

そこで、われわれの研究班は、現代イスラーム思想の諸潮流とこれと密接に結びついた政治社会運動、冷戦後の国際関係においてイスラーム地域の占める位置と役割、思想と政治・社会とを結ぶイスラーム法の現状と動態、これらを地域間比較の手法を用いながら総合的に研究することによって、現代文明とイスラームとの複雑な相互関係を解明することをめざしたい。研究班1を構成する3つの研究グループは、今年度それぞれ以下の課題を設定している。

a グループ「現代イスラームの思想と運動」は、近現代の主要な思想家の思想をその原典

から読み解く作業を進めるとともに、それと密接に結びついている現代のイスラーム復興運動の特質を地域間比較の方法を用いて検討する。そのさい、歴史的な展望を欠かさず、また個々の思想や運動の地域を越えた共振作用にも留意したい。

b グループ「国際関係の中のイスラーム」は、現代の国際社会においてイスラームはどのように位置づけられるのかを、国際政治の枠組みの中で明らかにしていくことを目標とする。具体的には、国際紛争におけるイスラーム政治運動の位置づけ、地域ブロック化と「イスラーム」の関係、反体制運動としてのイスラーム運動と国際社会の関係などの諸問題を内外の中東・中央アジア・東南アジア研究者（とくに政治学・現代史・地域研究の研究者）を交えた研究会を開催して検討する。

c グループ「イスラームの法と社会」は、現代のイスラーム国家において、古典的な規範がほぼそのまま適用されている唯一の領域である家族法に注目し、古典的なイスラーム家族法の体系を把握しながら、現代の立法との異同を確定するための基礎作業を行う。そのために国内の人類学者や歴史学者による報告を中心に研究会を開催し、古典的な家族法と現代の立法との間の異同がいかにして生じたのかを分析する作業を進める。

研究班全体としては、個々の研究グループの活動を有機的に結びつけ、また地域間比較を行うために、今年度も合同研究会を開催する。今年度は国際交流基金の助成（日欧国際会議助成）とフランス大使館の援助を得て、国際ワークショップ *Intellectuals in Islam in the 20th Century: Situations, Discourses, Strategies* の開催を予定している（2000年10月13-15日、ホテルJALシティ四谷）。これには、アラブ地域、トルコ、イラン、バルカン、中央アジア、南アジア、中国などを専門とする研究者が参加して、20世紀ムスリム知識人について縦横に議論することになっている。

研究班1の中に拠点を持つ中央アジア研究ネットワークは、今年度も機会をとらえて地域研究セミナーを開催するほか、マイクロフィルム資料のデータベース化と「フェルガナ・プロジェクト」に取り組む予定である。

- ・マイクロフィルム資料のデータベース化

これは、19世紀末から今世紀初めにかけてロシア・中央アジア地域で刊行された新聞・雑誌資料の利用を容易にするために、そのマイクロフィルム資料のデジタル化を行うものである。これらの資料は、ソ連の解体によってはじめて利用が可能となったものであり、この地域におけるイスラーム復興運動の展開を解明するには不可欠の資料である。そのデジタル化は、中央アジア地域研究の発展に大きく貢献するにちがいない。なお、この作業はイスラーム地域研究情報ネットワークの機器を活用して行われる。

- ・「フェルガナ・プロジェクト」：地理情報システムによる人口動態の解析

中央アジアの東部、ウズベキスタン・タジキスタン・クルグズスタン3国が交わるフェルガナ地方は、現代中央アジアにおいてイスラーム復興運動がもっとも進展しつつある地域であるとともに、民族間の対立や環境汚染の深刻化などの問題によって、さまざまな意味で緊張関係が増大している地域である。タジキスタン内戦のような紛争がこの地域で繰り返される危険性も指摘されている。1999年夏キルギス南部で起こった武装勢力の浸透・人質事件の舞台となったのもこの地域である。この地域の諸問題を理解するには、過去1世紀の人口動態や民族の分布状況を地理情報と組み合わせて分析することが有効であろう。中央アジア研究ネットワークは、この「フェルガナ・プロジェクト」を新しい研究課題として発足させ、現在20万分の1の詳細な地図の上にさまざまな統計データを取り込む作業を続けている。このプロジェクトにおいては研究班4の岡部研究室の全面的な協力を得ており、最新のコンピュータ技術の活用という「イスラーム地域研究」の趣旨にもなっていると考える。

これまでの研究成果のとりまとめとしては、以下の刊行を予定している。

- ・シンポジウム論集および原典翻訳シリーズとして：

八尾師誠・中西久枝編『アフガーニー』

岡真理・中西久枝編『イスラームとフェミニズム』

富田健次『ホメイニー論集』

粕谷元『ヌルスィー著作選』

中西久枝『ジャアファリー選集』

- ・イスラーム地域研究英文叢書の一環として：

Kosugi Yasushi ed., *The Manar Journal and the Manar School*, London, 2001.

Stéphane Dudoignon & Komatsu Hisao eds., *Islam and Politics in Russia and Central Asia*, London, 2001.

S. Dudoignon, Y. Kosugi & H. Komatsu, *Intellectuals in Islam in the 20th Century*, London, 2002 or 2003.

- ・Raja A. ADAL ed., *The Index of the Journal "La Nation Arabe"*, Tokyo, 2001.

2. 海外派遣・招聘計画

a. 海外派遣

- ・伊藤弘子（研究協力者、愛知女子短大）

派遣時期および派遣地：2000年8月15日～9月5日、インド

目的：インド家族法の調査

b. 招聘

- Yusuf IBISH (Furqan Foundation, London)
- Nuria G. GARAEVA (Academy of Sciences of Tatarstan)
- Françoise AUBIN (CNRS/CERI, Paris)
- Stéphane A. DUDOIGNON (CNRS, Strasbourg)
- Yann RICHARD (The University of Paris III Sorbonne-Nouvelle)
- Alexandre POPOVIC (CNRS, Paris)
- Dale F. EICKELMAN (Dartmouth College)
- François GEORGEON (CNRS, Paris)
- Stefan REICHMUTH (The University of Bochum)
- Marc GABORIEAU (CNRS-EHESS, Paris) 以上 10 名

招聘期間および招聘地：2000 年 10 月、東京

目的：国際ワークショップ *Intellectualus in Islam in the 20th Century* への出席

3. グループ・リーダーより

< 1 - a >

今年も、20 世紀におけるイスラーム思想とイスラーム復興運動の展開と特質を、現実の政治・社会・経済的な諸条件との関連を考慮に入れつつ、地域間比較の手法によって解明していきたい。そのために復興運動研究会をはじめ原典および論点・書評研究会を随時開催していく。この間、1998 年に開催した『マナール』誌に関する国際ワークショップと、1999 年に開催したロシア・中央アジアにおけるイスラームと政治に関する国際ワークショップの成果を収めた英語の論文集の刊行を実現したいと思う。また、今年の 10 月に開催を予定している国際ワークショップ *Intellectuals in Islam in the 20th Century* は、知識人という切り口から現代イスラーム世界の動態を俯瞰する試みであり、地域間比較の観点からも多くの方々の参加を呼びかけたい。(小松久男)

< 1 - b >

b グループでは、これまで中東の現状分析・政治国際動向研究と中央アジア研究を二本柱にして研究会を進めてきたが、今年から新たに国際政治・政治理論研究とナショナリズム・国民国家研究に積極的に取り組んでいきたい。前者の目的は、地域研究であるイスラーム研究が理論研究・比較研究のレベルにおいても通用するだけの汎用性を獲得していくことを目指してのことであり、後者は「ナショナリズム、国民国家、近代政治運動」をキーワードとして、国家成立のためのイデオロギーとしてのナショナリズム・宗教・神話などといったも

のを分析対象とする。なおグループ内での議論にとどまらず、積極的に他班の研究者との意見交換、交流を活発に行なっていくつもりである。(酒井啓子)

< 1 - c >

昨年は外部の研究者や研究分担者・協力者による報告を中心に3回の研究会を行い、ある程度は方針が見えてきたように思う。今年は、来年度以降研究報告の形で成果を発表することを目指す。研究分担者・協力者の専門の地域と時代が比較的拡散しているので、どのように研究を収束させていくかという問題はあるが、古典法と現代立法の間の関連が焦点となると考えている。(柳橋博之)

研究班2「イスラームの社会と経済」

研究拠点：上智大学アジア文化研究所 (代表者 私市正年)
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学アジア文化研究所「イスラーム地域研究」第2班事務局
TEL 03-3238-3162 (直通) 3238-3697 (アジア文化研究所) FAX 03-3238-3162
e-mail: y-hosonu@hoffman.cc.sophia.ac.jp
<http://pweb.sophia.ac.jp/~m-kisaic/>

1. 主な研究テーマと活動

研究班2の活動の基本的枠組みは、現代世界が抱える社会的、経済的課題を、歴史的視点を重視しつつ研究することにある。

この視点に立った昨年までの研究からは、イスラーム地域における民衆と民主化問題が重要な主題として浮上し、班全体の活動の焦点となるにいたった。「いま、なぜ市民社会なのか (1997年度)」、「民主化と社会運動 (1998年度)」、「イスラーム地域における民主化と民衆運動 (1999年度)」という、3回にわたる国際ワークショップや班全体研究会を経て明らかになったのは、イスラーム地域における民主化問題が権力闘争の道具にされており、民衆が政治にどれだけの発言と意志表示ができるのかが、最大の課題となっていることである。

平成12年度はこの認識の上に立って、イスラーム地域における民衆と民主化問題を、政治的状況、経済開発、民衆運動の3つの方向から総合的に分析する。そのため、「イスラーム地域の民衆運動」というテーマの国際ワーク・ショップを、今年度の研究成果を集約すべく11月に開催する。招聘、海外調査、グループ研究もこれと連動して行う。さらに、上記の共通課題をイスラームの原理にも立ち戻って研究し、これまでの活動を補うために、aグループ

の活動の一環として、「イスラームと自由」、「イスラームにおける民衆暴動」という研究会を新たに立ちあげる。研究班2を構成する3つの研究グループは、今年度、以下のような活動を予定している。

a グループは、イスラーム地域における社会開発と密接に関わる様々な社会運動や市民社会、民主化問題の研究を重要な課題として取り上げる。これは、複数政党制や議会制度の実施にもかかわらず、実質的な民主主義が機能していない多くのイスラーム地域諸国の実状に照らして、経済開発や制度的改革のみでなく、社会開発が民主主義の実現のために重要であるとの視点に立っているものである。具体的には、イスラーム地域の民主化問題を比較するため、東南アジア、中東、中央アジアの諸地域の事例研究会を5回ないし6回実施する。また、上述のとおり、イスラームと民主主義の関係を原理的かつ歴史的に考察するため小研究会を立ち上げる。

b グループは、市場経済化と経済発展の担い手、イスラーム経済・金融システムの導入、地域統合構想、商業・流通・労働力ネットワーク、石油・天然ガス等資源開発と環境問題との関わりなどのテーマを、イスラーム地域との関連の中で研究していく。具体的には、イスラーム諸地域における経済開発が、民衆の人権や環境問題に及ぼす影響を与えているかを主題として、5回ないし6回の研究会を実施する。

c グループは、スーフィズム、聖者信仰、タリーカをめぐる複合的事象を中心的課題としてとりあげる。その理由は、これらの諸課題には思想的洗練と民衆信仰が交錯し、社会組織としての多様な政治経済活動が見られ、なおかつ歴史性と今日性を併せ持つが故に、地域、時代、研究分野を横断した包括的課題であるからである。具体的には、上記の複合的事象を現代社会の民衆の生活や福祉との関係で研究するため、事例研究と理論研究を交錯させて、5回ないし6回の研究会を実施するとともに、グループ独自で2日にわたるワークショップを開催する。服飾文化の社会性をめぐる小研究会については、今年度具体的な成果を活字媒体もしくは電子媒体の形で発表する。

各グループの活動に関しても、班全体の活動に関しても、研究の成果は、プロシーディングや論文として明確な形にすべく努める。現時点で決定しているのは、1998年度の国際ワークショップ「イスラーム地域における民主化と民衆運動」および1997年度に研究班5が開催し、成果発表については研究班2に移管した国際ワークショップ「Ziyara: Ethno-Historical Study of Muslim Visitation to Religious Places」の2つについて、英文プロシーディングを年度内に刊行することであり、今年度のワークショップについても同様の成果刊行に向けて準備に着手する。また、昨年度英語で行われた研究会のいくつかについては、子島進の「Pir, Waiz and Imam: Religious Leadership among the Ismailis in Pakistan」などを、プロジェクトのワーキン

グペーパーシリーズの1冊として刊行する。また、cグループでは、スーフイズム、聖者信仰、タリーカの研究に有用と思われる諸概念や人名、地名についてグローサリーを作成し、順次ホームページ上にて公開していく。

2. 海外派遣・招聘計画

a. 海外派遣

- ・堀川徹（分担者）、赤堀雅幸（分担者）、今松泰（研究協力者・神戸大院生）、森山央朗（研究協力者・東大院生）

派遣時期および派遣地：2000年8月1～20日、カラチ、タシケント、ダマスクス

目的：東方イスラーム世界の民衆宗教に関する調査・研究

b. 招聘

- ・Boaz Shoshan（イスラエル、Ben-Ghurion 大学教授）

招聘時期：2000年11月20～30日

目的：研究班2合同ワークショップに参加

- ・Hayati Nizar（インドネシア、イマム・ボンジョル調査研究所研究員）

招聘時期：2000年11月20～30日

目的：第2班合同ワークショップに参加

3. グループ・リーダーより

< 2-a >

a グループは、社会開発と密接に関わる様々な社会運動や市民社会、民主化問題の研究を重要な課題として取り上げる。これは、経済開発や制度的改革だけでなく、社会開発が民主主義の実現のために重要であるとの視点に立ってのものである。さらに民主化問題における民衆の役割、民主化問題の歴史的背景、イスラーム思想と民主主義思想の関わりなど原理的（思想的・哲学的）なレベルにまで掘り下げた研究を行うつもりである。（私市正年）

< 2-b >

b グループは、清水（代表）、長沢、鳥居が担当する。ここでは、グローバリゼーションと経済発展の担い手の変化、市場経済化のプロセス、産業構造と社会階層の変動、イスラーム経済・金融システムの導入、地域統合構想、商業・流通・労働力・資本のネットワーク、石油・天然ガスなどの資源開発と経済発展、環境問題、人口問題、ODA と NGO などの問題を、東南アジアを含むイスラーム地域との関連の中で研究していく。そのなかで経済協力や経済統合とイスラームの役割、経済危機に対する各種イスラーム運動の対応やオルターナテ

イブの提示にも十分注意を払うこととする。(清水学)

< 2 - c >

c グループは、最終成果の発表形態を念頭におき、スーフイズム、聖者信仰、タリーカをめぐる複合的事象の研究を核に活動を展開する。多彩な事例研究を若手研究者中心に継続しつつ、理論的主題に基づいた連続研究会を織り交ぜる。あわせて、先行研究グローサリー、英文ワークショップ・プロシーディング、服飾文化データベースを急ぎとりまとめる。(赤堀雅幸)

研究班3「イスラームと民族・地域性」

研究拠点：国立民族学博物館・地域研究企画交流センター（代表者 加藤博）

〒565-8511 吹田市千里万博公園 10-1

国立民族学博物館・地域研究企画交流センター事務室気付「イスラーム地域研究」第3班事務局

TEL 06-6878-8342 FAX 06-6878-8353

e-mail: san@idc.minpaku.ac.jp

<http://www.minpaku.ac.jp/index03.htm>

1. 主な研究テーマと活動

現代世界においては東西冷戦体制の崩壊以後、地域紛争が多発し、そのほとんどが民族と宗教をめぐる紛争として現象している。この点において、イスラーム世界は傑出している。その理由として、次の2つが指摘できる。第1は、イスラーム世界は多様かつ広域な世界であるが、そこでの政治単位である国家のほとんどは発展途上国であり、中東にその典型が見られるように、国内での政治経済の動向が国際政治経済の動向に大きく左右されるということである。第2は、イスラーム世界の文明的あるいは文化的な伝統が、近代ヨーロッパで形成された国民国家体制—東西冷戦体制もこの延長線上に築かれていた—と基本的なところで馴染まないということである。そのため、国民国家と国民経済の成熟度において劣るイスラーム世界の各国の政治担当者は、国家という政治単位と、民族や宗教といったより広い範囲の文化単位との狭間にあって、微妙な舵取りを要請される。と同時に、彼らは自らの政権維持のために、対内的にも対外的にも、文化的な伝統に依拠する様々な政治的プロパガンダを展開することになる。さらに、近年においてはグローバリゼーションと総称される既存の国境を越えた地球規模でのモノ、カネ、人、情報の移動を通じて、こうした政治と文化の相克と葛藤は国民国家の本場である欧米にも移植され、イスラーム世界の外においても多くの文

化摩擦と社会不安を引き起こしている。以上のような基本認識のもとに、本研究は、広域的なイスラームという文明単位、より限定的な民族という地域文化の単位、そして国家という政治単位、以上3者の間における錯綜した「共存と摩擦」の諸相を、住民の棲み分け状況や彼らの重層的なアイデンティティ構造にまで踏み込みながら、解明することを目的とする。そのことによって、イスラーム世界における「国民国家」概念の脆弱性と「地域」概念の可変性の問題が理論的に深められ、21世紀におけるポスト国民国家時代のイスラーム世界を見通すための最も重要な視点が得られると期待されるからである。これにあたり、イスラーム世界におけるマジョリティであるムスリム（イスラーム教徒）のアイデンティティ形成とその展開を分析の中心に据える。それは、ポジティブな形であれ、ネガティブな形であれ、錯綜する共存と摩擦の諸相はムスリムのアイデンティティとそれに基づく彼らの世界観・論理・行動様式と深く関係しているからである。

上記の目的を達成するための研究計画の概要は次の通りである。研究班としてのキーワードを「教育」「メディア」「女性」「文化摩擦」に絞り込み、平成12年度以降、次のように研究を行う。

a グループは、「教育」「メディア」「女性」につき、さまざまな次元において、イスラーム社会の虚像を作り出すイデオロギーやイメージの生産過程、その社会における役割をより具体的に追求する。また、「女性」に焦点を定め、その人的資源としての潜在的可能性を探りながら、21世紀におけるイスラーム世界を見通す手がかりについて考察する。

b グループは、「ファンダメンタリズム」「世俗化」「イスラーム復興」の問題を念頭におきつつ、イスラーム世界における文化摩擦を多様な次元（イスラーム主義者と一般ムスリムの間の摩擦、イスラーム復興・ナショナリズム・世俗主義の間の摩擦、ムスリムと非ムスリムの間の摩擦など）で、検討する。あらたな研究テーマとして、映像資料を駆使した、メディアに現れるイスラーム社会の虚像と実像の分析を行い、特に非イスラーム社会における文化摩擦に関する映像資料を作成し、そのデータベース化と公開の仕組みを作り出す。

c グループは、a, b グループならびにイスラーム地域研究全体の動向に連動した資料収集にあたるが、b グループのあらたな研究テーマとの関連からも、自覚的に CD-ROM などの電子資料、ビデオ・映画・写真などの映像資料、GIS 関連の地図情報など、非文字資料の収集により重点を多く。そして、それらをデータベース化し、広く一般に情報提供を行うシステムを構築する。また、これまで活動を資料収集に特化してきたことを改め、a, b グループの活動を補完するため c グループ内に、メディア・女性・教育・文化摩擦に関する言説行動を分析する研究会を独自に立ち上げる。

最終年度である平成13年度においては、本研究全体のまとめとして各グループでデータベ

ースの立ち上げ・公開を行い、研究成果を国際シンポジウムで発表し、さらに出版する。

2. 海外派遣・招聘計画

a. 海外派遣

- ・山岸智子（分担者）、森田豊子（研究協力者、神戸大学大学院・博士課程）
派遣期間および派遣地：2000年8月、テヘラン
目的：ムスリムと文化摩擦に関する「語り」の映像資料の作成のため
- ・ジョン・フィリップス（研究協力者、弘前大学人文学部・助教授）
派遣期間および派遣地：2000年8月、西アフリカ
目的：西アフリカにおけるイスラーム教育に関する比較研究および現代イスラーム資料の収集
- ・菅瀬晶子（研究協力者、総合研究大学院大学・博士課程）
派遣期間および派遣地：2000年8月、エルサレム・アンマン
目的：イスラーム世界におけるマイノリティに関する資料の収集
- ・帯谷知可（分担者）
派遣期間および派遣地：2000年9月、タシュケント
目的：中央アジア関連現代イスラーム資料の収集
- ・内藤正典（分担者）
派遣期間および派遣地：2000年11月、アムステルダム・ベルリン
目的：ムスリムと文化摩擦に関する「語り」の映像資料の作成
- ・泉沢久美子（研究協力者、日本貿易振興会アジア経済研究所・課長代理）
派遣期間および派遣地：2001年1月、カイロ・ダマスカス
目的：イスラーム世界における女性に関する資料の収集

b. 招聘

- ・リーヌス・ペニンクス（アムステルダム大学移民研究センター教授）
目的：「ヨーロッパのムスリム移民労働者」に関する共同研究のため
- ・バハッティン・アクシット（中東工科大学文理学部教授）、ジョン・ウォーターベリー（プリンストン大学教授）
目的：国際シンポジウム「イスラーム運動と女性労働市場－政治経済学的視点」出席のため

3. グループリーダーより

< 3-a >

引き続き「女性」「教育」「メディア」をキーワードに、イスラーム世界住民のアイデンティティ形成に係わる諸問題を追求するが、今年度は、『イスラーム地域研究叢書』で研究班3が出版を計画している論文集「性と文化」作成準備として、問題を「人的資源としての女性」に絞り込んだうえで、研究活動（研究会・ワークショップ組織、海外派遣、研究者招聘）を行う。（加藤 博）

< 3-b >

前年度からスタートした「ムスリムと文化摩擦」に関する映像資料の作成を国内・国外で本格化し、その成果を公開する機会を持つとともに、資料の整理・分析の作業を進める。それと並行して、「民族と宗教の復興」をテーマにした研究会その他の場で、イスラームの変動をより広い歴史・社会的脈絡に位置付ける作業を継続する。（大塚 和夫）

< 3-c >

cグループは現代イスラームに関する資料収集を目的としている。これまで通り、他班の収集グループとはその収集を差異化するために非文字資料を中心にビデオなどメディア関係の収集に重点をおきたい。もちろん、研究班3のa,bグループの研究目的にも沿うからでもあるが、同時に新聞切り抜きやパンフレット類も現代イスラームの動向を押さえる重要な資料になることはいうまでもない。（臼杵 陽）

研究班4「地理情報システムによるイスラーム地域研究」

研究拠点：東京大学大学院工学系研究科（代表者 岡部篤行）

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 岡部・浅見研究室 「イスラーム地域研究」第4班事務局

TEL 03-5841-6225 FAX 03-5814-8521

e-mail: tkuroiwa@ua.t.u-tokyo.ac.jp skohno@ua.t.u-tokyo.ac.jp

<http://okabe.t.u-tokyo.ac.jp/islam/gis-j.html>

1. 主な研究テーマと活動

当班の全体研究テーマは、イスラーム地域研究にGISを適用して、新たなイスラーム地域空間分析学問分野を構築することにあります。そのために、空間スケールに応じて、aグループ「大域地域空間分析」とbグループ「小域地域空間分析」の2つの研究グループを設

けて研究を進めています。

a グループ

インドのボンネリに研究対象地域を設定し、18世紀から現代に至るまでの歴史的な資料のデータベース化、高解像度リモートセンシングデータから土地被覆パターンを抽出する方法、土地被覆パターンデータを分析する方法をそれぞれ開発しています。さらには中央アジア・フェルガナ地域も研究対象地区として研究の準備を始めました。

b グループ

より細かい都市・建物のデータを収集して、トルコの住宅の形態の合理性、民族と住宅様式・住宅地構成の違いを他国の都市調査結果と比較しながら定量的に分析を行うとともに、3次元的情報を加味した空間分析手法の開発を行っています。

2. 海外派遣・招聘計画

a. 海外派遣

・浅見泰司（研究分担者）

新井勇治（日本学術振興会特別研究員（PD））

イスマイル・イステッキ（東京大学空間情報科学研究センター・客員研究員）

及川清昭（東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻・助教授）

陣内秀信（法政大学工学部建築学科・教授）

鶴田佳子（昭和女子大学大学院生活機構研究科・博士課程）

曲渕英邦（東京大学生産技術研究所第5部・助教授）

山田王世（国土舘大学イラク古代文化研究所共同研究員）・・・以上7名研究協力者

派遣期間および派遣地：2000年8月（イスタンブールなどトルコ諸都市、ダマスカスなどシリア諸都市など）

目的：トルコおよび比較対照都市の空間構成調査

b. 招聘

本年度、予定なし。

3. グループリーダーより

研究班4は、「地理情報システムによるイスラーム地域研究」というテーマからもお分かりのように、イスラーム地域研究の研究者と地理情報システムの研究者が共同で研究を行っています。ここでは、いわゆる文理融合の方法を目指しております。しかし、文理融合とは言うは易しくて、実際はなかなか難しく時間のかかるものです。それぞれに専門を持ち、それに加えて異なる専門

を理解しなければならないのですから、大変なのは当然かもしれません。異なるものが融合する時に新たな方法が生まれると夢見て3年間、2週間に1回ほどの研究会を持ちながら、共同研究を進めてまいりました。やっとこの頃、双方の方法が理解でき良きパートナーシップがとれるようになって来たと思っております。これから2年間、スパートをかけて成果を上げて行きたいと思っております。成果の程をご期待ください。(岡部篤行)

研究班5「イスラームの歴史と文化」

研究拠点：東京大学東洋文化研究所（代表者 羽田正）
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学東洋文化研究所西アジア部門内「イスラーム地域研究」第5班事務局
TEL 03-3815-9565（直通） FAX 03-3815-9565（直通）
e-mail: 5jimu@ioc.u-tokyo.ac.jp
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~5jimu/>

1. 主な研究テーマと活動

1999年度からはじまった3つのグループによる研究活動は順調に進んでいる。今年度は新たなテーマを設定せず、昨年度以来の調査、研究会活動を引き続いて実施し、研究の深化を図る。具体的な計画は以下の通りである。なお、本班では、ホームページを介しての情報の公開に特に力を入れている。通常の形の調査・研究会報告だけではなく、発表レジュメそのものを掲載したり、「文献短評」のような独自のページを作るなど、出来る限り読みやすく、情報が新しく豊かなホームページとなるよう多くの工夫を試みている。

< a グループ >

- ・「中近東窯業史研究会」：我が国に現存するイスラーム陶磁（ガラス器も含む）の全体像を解明し、それを世界に向けて発信するため、昨年度に引き続き、年に2回の実地調査を行う（責任者：榊屋友子）
- ・「サライ・アルバム」研究会：イスタンブールのトプカプ宮殿に保存されている美術作品「サライ・アルバム」を多角的に研究し、そのデータベース化を試みる。年に3～4回の研究会を予定している（責任者：ヤマンラール水野美奈子）
- ・「知識と社会」研究会：知識と社会の間に存在する相関関係の様々な局面を論じ、イスラーム文明における知識の様態と、知識観の特質の解明を目標とし、引き続き年に3回程度の研究会を開催する（責任者：森本一夫）
- ・「中東の都市空間と建築文化研究会」：イスラーム建築や都市空間に関心を抱く研究者が一

堂に会し、互いの情報を交換するとともに、新たな課題を見いだそうとするもので、今年度も引き続き年4～5回程度開催される（責任者：深見奈緒子／研究協力者）

< bグループ >

「イスラーム圏における国際関係の歴史的展開－オスマン帝国を中心に－」研究会（東京外語大AA研との共催／責任者：黒木英充）、「国際商業史」研究会（責任者：深沢克己）、「地域間交流の諸相」研究会（責任者：羽田正）という3つの研究会を通じて、引き続き異文化の接触と交流の問題を考える。各研究会は、それぞれ年2～3回開催の予定。また、9月には3名の外国人研究者を招き、「Pre-session of Ports, Merchants and Cross-cultural Contacts」と題する国際ワークショップを開催する。17-19世紀におけるインド洋や地中海の港町での商業を通じた異文化接触の実態が議論され、来年度開催される予定の本セッションに向けての意見交換が行われる。

< cグループ >

- ・「比較史の可能性」研究会：2年度目（2000年度）の研究会では、「所有・契約・市場」の課題をひきつぎ、つぎのような形で議論の展開を図りたい。（責任者：三浦徹、岸本美緒、関本照夫）
 1. 3つの課題の接点となるテーマとして、「所有・契約・市場」を保障する秩序のあり方を比較検討する。そこでは、単に、「所有（権）がいかに保障されたか」を問うだけでなく、「所有（権）の保障を通して、秩序や権力がいかに形成されたか」を考えたい。
 2. 主たる対象の3地域（中国、東南アジア、中東）にくわえ、日本、南アジア、中央アジア、アフリカ、欧米などの地域をとりあげ、論点を広げる。
 3. 6月の研究会は、「バザール経済：市場の秩序と市場による秩序の形成」（仮題）、12月は「公正」をテーマとする。
 4. 外国人研究者を招聘して、9月に国際ワークショップ「所有・契約・市場」を開催し、新たな論点の展開をさぐる。
- ・前年度から、回儒（回族ムスリムの思想家）の著作研究を、イスラーム史、中国哲学、イスラーム哲学という多分野の研究者が集まり、輪読する形で行っている。今年度も、これを定期的で開催するとともに、現在テキストとしている劉智の著作の訳注を刊行する。（責任者：黒岩高／研究協力者）

2. 海外派遣・招聘計画

a. 海外派遣

- ・森本一夫

派遣期間および派遣地：2000年8月、オスロ

目的：第19回国際歴史学会議（オスロ）への参加

b. 招聘

- ・Priscilla P. Soucek（ニューヨーク大学）イスラーム美術史研究

招聘期間：2000年10月7日～10月21日

目的：a グループ「中近東窯業史研究会」「中東の都市空間と建築文化」への参加

- ・Edmund Herzig（マンチェスター大学）アルメニア人ネットワークの研究

Philippe Haudrere（アンジェ大学）フランス東インド会社の研究

Rudiger Klein（テュービンゲン大学）アレppo商人文書の研究・・・以上3名

招聘期間：2000年9月16日～9月30日

目的：b グループ国際ワークショップ "Pre-session of Ports, Merchants and Cross-cultural Contacts" への参加

- ・James A. Reilly（トロント大学）シリア社会経済史研究、Valerie Hansen（エール大学）宋代史、他1名（未定）

招聘期間：2000年9月16日～9月30日

目的：c グループ国際ワークショップ「所有・契約・市場」への参加

3. グループ・リーダーより

< 5 - a >

昨年度新体制で出発した当グループは、「イスラーム地域における美術・工芸・建築・学問及び知識の発展と伝達」という学問分野において、個々の研究者同士がその研究成果を報告しあう共通の場を日本では初めて提供することができた。今年度も引き続き、研究会活動を中心として各テーマの理解を深めていくと共に、調査を行う予定である。（梶屋友子）

< 5 - b >

グループ・メンバーの共通の関心は、異なった文化的背景を持つ個人や人間集団が会った時、そこにどのような交流や反発、摩擦や融合が生じるのかを検証しようとするところにある。本グループでは、主として歴史的側面からこの問題にアプローチしようとして試みているが、これは同時にきわめて現代的な課題でもあることを忘れてはならないだろう。グループによる研究活動の中間発表として、また、最終年度の国際会議の準備として、9月に開催予定の

ワークショップが持つ意味は大きい。その成功に向けて全力を尽くしたい。(羽田正)

< 5 - c >

昨 99 年度の比較史研究会では、「所有」「契約」「市場経済と資本主義」をテーマに 3 回の研究会を行い、中国、東南アジア、中東・イスラーム世界を対象とする研究報告を 3 本ずつお願いした。研究会の開催にあたっては、担当幹事が趣意書を作成し、報告者からは、事前に報告要旨と参考文献をいただき、さらに当日レジュメ（報告資料）を配布した。研究会の参加者からは、観戦記という形でのコメントをいただいた。研究会後の報告では、質疑・討論とともに、幹事のまとめを掲載した。これらの配布資料は、順次、5 班のホームページに掲載した。研究会の目的は、論点の発見と交流にある。2 年度目も同じ課題を継続し、論点を拡散させるのではなく、掘り下げる方向を選択した。今後の研究会で論点を共有・発展できるように、昨年度のすべての配布資料を 1 冊（比較史研究会「活動の記録」、計 119 ページ）にまとめた。これらを積み重ねるうちに、地域の姿があぶりだしになることを期待している。回儒の著作研究会は、若手を中心に同じテキストを異分野の研究者が輪読するという、もう 1 つの比較研究の試みである。(三浦 徹)

研究班 6 「イスラーム関係史料の収集と研究」

研究拠点：財団法人東洋文庫（代表者 北村甫）
〒 113-0012 東京都文京区本駒込 2-28-21
財団法人東洋文庫気付「イスラーム地域研究」第 6 班事務局
TEL 03-3942-0121（内線 237） FAX 03-3942-0258
e-mail: IAS6@toyo-bunko.or.jp
<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/IAS/6-han/6index.html>

1. 主な研究テーマと活動

平成 12 年度の研究班 6 は、次の 3 点を研究テーマに活動を行う。

(1) 資料の収集・データベース化・公開

本班は研究プロジェクト全体の「資料室」としての役割を担う。近年活発なイスラーム地域での出版活動をフォローし、現地で出版された歴史・宗教・文学・民族・社会情勢などに関する資料や研究書を広く収集し、特に前近代を対象とするイスラーム地域研究遂行のための基盤整備を行う。今年度の資料収集の対象地域は、北アフリカ・中東・中央アジア

・中国である。さらに収集された資料の図書情報を迅速にデータベース化する。収集図書データベースは、順次、インターネットを通じて公開される。また収集図書は東洋文庫内に別置され、プロジェクト参加者をはじめとする閲覧者の利用に供される。

(2) アラビア文字文献所蔵図書館ネットワークの構築

上記のように、研究班6ではイスラーム地域研究に必要な資料の収集に努めるが、イスラーム地域研究の効率的な遂行のためには、全国の図書館に散在する関連図書の効果的な検索もかかせない。しかし、アラビア語、ペルシア語、ウルドゥー語、ウイグル語などのアラビア文字文献は、従来、コンピュータやインターネットの上での扱いが困難であった。このため全国の図書館でのアラビア文字文献の整理やデータベース化は著しく遅れた状態にある。本研究では、こうした状況を打開するため、アラビア文字文献所蔵図書館ネットワークを組織する。すなわち、全国の図書館のアラビア文字文献の整理・データベースを援助し、互いに互換性のあるデータベース構築をめざす。アラビア文字文献共通データベースはインターネットを通じて広く公開される予定である。

(3) イスラーム地域の歴史史料の利用に関する研究

イスラーム地域の歴史史料への理解を深め、それらを効率的に利用するための基礎的研究を行う。研究会としては、ペルシア語文書研究会、オスマン文書研究会、アラビア語写本史料研究会、ムガル史料研究会の4研究会が言語・地域別の分科会として運営される。古文書史料を対象とするペルシア語文書・オスマン文書の2研究会では、様々な形式・内容をもつ文書群を形態論・様式論・機能論的に扱い、その理解を通じて、文書を生み出した社会の歴史的な構造・制度・慣習の比較研究を目指す。主に記述史料を対象とするアラビア語写本史料研究会、ムガル史料研究会の2研究会では、対象地域の伝統・習慣を伝える歴史叙述に注目し、それぞれの文化圏に固有の文化コードの抽出に努める。また、地域・言語の枠を越えてイスラーム地域の歴史史料がもつ一般的特色への理解を深めるための研究会を開く。さらに史料を扱う技術的な力の向上と若手研究者の育成をめざし史料講習会を実施する。現地より講師を招き、夏期にアラビア語写本史料講習会、秋期に中央アジア文書史料講習会を開催する予定である。

2. 海外派遣・招聘計画

a. 海外派遣

- ・黒岩高ほか1名

派遣時期および派遣地：2000年9月、中国

目的：中国イスラム関係資料収集のため

- ・ 谷口淳一

派遣時期および派遣地：2000年8月、エジプト

目的：宮廷儀礼に関するアラビア語写本史料の現地調査

b. 招聘

- ・ Dr. Ayman Fu'ad Sayyid (エジプト国立図書館元館長)

目的：アラビア語写本史料講習会のための招聘

- ・ Dr. Asam Urunbaev (ウズベキスタン共和国科学アカデミー東洋学研究所研究員)

目的：中央アジア文書史料講習会のための招聘

3. グループリーダーより

研究班6がこれまで3年間に収集してきた資料は、中国のイスラム関係漢籍からモロッコの小説にいたるまで多岐にわたり、総点数約5500、冊数では7000冊以上に及んでいます。既購入分の整理はほぼ終わり、東洋文庫4階の新プロ閲覧室にて公開されています。今後は、みなさんにご利用いただく番です。インターネット上での検索を可能にし利用の便宜をはかりますが、最後は実際に手にとって読んでいただきたいものです。すぐれた選書者によるコレクションですので、イスラム地域の広がりと各地域の研究の厚みを実感していただけるものと思います。さて、研究班6の研究課題は、現在の出版物収集に限られず、文字の形で残された過去の財産を有効に利用する手だてを考察することです。このため、各研究会で行われている写本や文書研究では、書かれた個々の内容よりも、特定のジャンルの著作や古文書がもつ固有の論理の解明に焦点が当てられています。なお、資料収集と史料研究に加えて今年度はアラビア文字文献所蔵図書館ネットワークの構築にも取り組みます。ご協力のほど、よろしく申し上げます。(林佳世子)

3. 国際交流について

日常的な国際交流の方針

- a. 英語版のホームページを作成し、必要な情報を発信します。

ホームページの URL アドレス：<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/IAS/>

- b. 外国人の研究者や研究機関が私たちのプロジェクトの活動状況を知り、これに興味を持ってくれるように、日常的に次のような方法でコンタクトをとります。

◎研究会のお知らせなどの重要な情報は、英文電子メールで外国の研究者にも送付します。

◎電子メールで連絡をとりにくい研究者には、他の手段（郵便、ファクスなど）の活用によって情報を伝えます。

- c. 日本人研究者がその研究成果を外国語で公表、出版する手助けをします。
- d. 関連分野の外国人研究者を日本に招待し、研究会、講演会を開催します。
- e. 日本人研究者と外国人研究者が共同で行う研究を積極的に推進します。
- f. 日本学術振興会特別研究員候補者を推薦し、採用された研究員と協力して研究の進展を図ります。

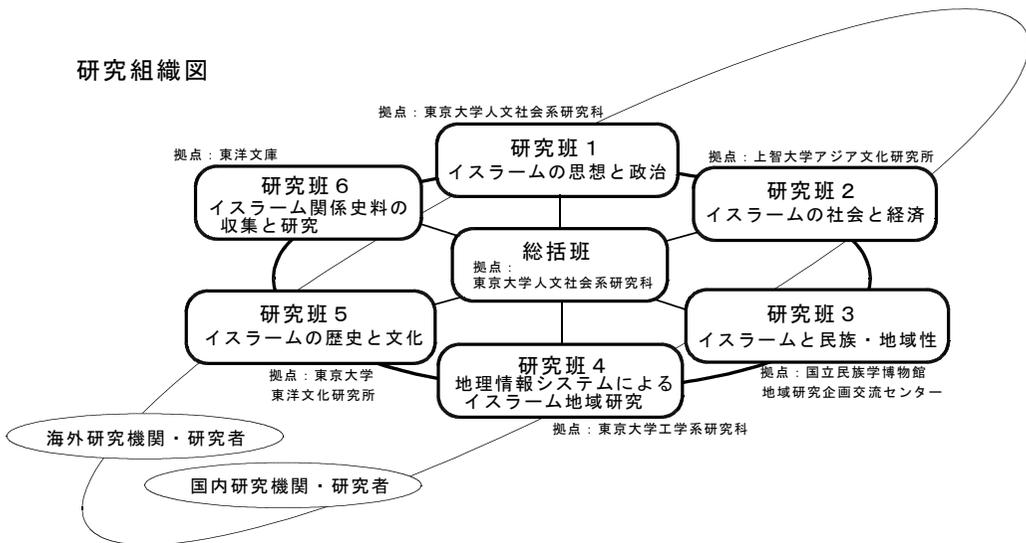
4. 広報と研究成果の公開について

- 1) 本研究プロジェクトの情報伝達、広報活動は、主にインターネットを利用して行います。電子メールを用いて、研究分担者などに研究会の連絡などの情報を直接お送りします。また、ホームページを開設し、そこでは、長期にわたって掲示する必要のある情報や研究成果の公開などを行います。印刷物の郵送による研究会などの連絡は原則として行いません。
- 2) 国内・国外のイスラーム地域研究にたずさわる研究者が、インターネットのネットワークで結ばれ、研究機関や研究者から、相互に情報が発信・受信されることをめざします。このため日本語とともに英語を用いた発信を行います。
- 3) 電子メールによる情報伝達を希望する方は、下記の事務局に連絡して下さい。所定の申し込みにより、メーリングリストに登録します。本研究に関心をもつ方であれば、日本国内・国外、研究者、学生、ジャーナリスト、教員など資格・条件は問いません。
問い合わせ先 i-office@l.u-tokyo.ac.jp
- 4) ホームページは、総括班と6つの研究班によって運営され、日本語版と英語版の二種類が開かれています。
 - ・総括班ホームページ(<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/IAS/>)
組織概要／新着ニュース／予定表／国際交流関連情報／研究活動報告／
オンライン・ライブラリ／メーリング・リスト案内／WWW リンク集
 - ・各研究班のホームページ (URL アドレスは各班の研究計画の欄に掲載されています。また上記の総括班ホームページからもリンクされています)
研究のねらい／活動予定／研究報告など
- 5) 研究成果の公開と保存のために、以下の印刷物を発行します。これらの送付を希望する内外の研究機関・研究者は、事務局へご連絡ください (e は有料頒布となります)。

- a. ニュースレター（日本語・英語、年1回） 各研究年度の研究計画を知らせる。
- b. 研究報告シリーズ Working Paper Series（日本語・英語など、随時） 研究会での報告に基づく論文を冊子形式で掲載する。
- c. 研究データシリーズ Data Book Series（随時） 文献目録や画像情報などを冊子形式またはCD-ROM形式で刊行する。
- d. プロシーディングス・シリーズ Proceedings Series シンポジウムなどの記録。
- e. イスラーム地域研究叢書 IAS Series プロジェクトの成果を長期間の利用にたえる図書形式で刊行する。日本語版および英語版の2つのシリーズを企画し、出版社とタイアップして市販する。本年3月に英語版 MIURA Toru and John Edward PHILIPS eds., *Slave Elites in the Middle East and Africa*, London and New York, Kegan Paul International, 2000 を刊行した。

5. 研究組織

研究組織図



6. 研究分担者名簿 (2000 年度)

総括班

代表 佐藤 次高

(東京大学大学院人文社会系研究科教授 アラブ・イスラーム史)

小松 久男: 研究班 1 代表、事務局長

私市 正年: 研究班 2 代表、広報・出版担当

加藤 博: 研究班 3 代表

岡部 篤行: 研究班 4 代表

羽田 正: 研究班 5 代表、情報システム担当

林 佳世子: 研究班 6 代表代行、広報担当

酒井 啓子: 企画担当、研究班 1

柳橋 博之: 事務局長補佐、研究班 1

清水 学: 研究班 2

赤堀 雅幸: 出版担当、研究班 2

白杵 陽: 情報システム担当、研究班 3

大塚 和夫: 企画担当、研究班 3

榎屋 友子: 国際交流担当、研究班 5

三浦 徹: 出版担当、研究班 5

研究班 1 「イスラームの思想と政治」

代表 小松 久男

(東京大学大学院人文社会系研究科教授 中央アジア近現代史)

a グループ「現代イスラームの思想と運動」

小松 久男

(グループ代表 東京大学大学院人文社会系研究科教授 中央アジア近現代史)

小杉 泰

(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授 イスラーム学)

飯塚 正人

(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授 イスラーム学)

b グループ「国際関係の中のイスラーム」

酒井 啓子

(グループ代表 アジア経済研究所研究企画部研究事業開発課研究員 アラブ地域研究)

木村 正俊

(法政大学第二教養部助教授 国際政治史)

宇山 智彦

(北海道大学スラブ研究センター助教授 中央アジア研究)

c グループ「イスラームの法と社会」

柳橋 博之

(グループ代表 東京大学大学院人文社会系研究科助教授 イスラーム法)

小林 寧子

(南山大学外国語学部助教授 インドネシア近現代史)

中里 成章

(東京大学東洋文化研究所教授 南アジア近代史)

研究班 2 「イスラームの社会と経済」

代表 私市 正年

(上智大学外国語学部教授 マグレブ・アラブ地域研究)

a グループ「イスラームと社会開発」

私市 正年

(グループ代表 上智大学外国語学部教授 マグレブ・アラブ地域研究)

栗田 禎子

(千葉大学文学部助教授 中東・北アフリカ近現代史)

川島 緑

(上智大学外国語学部助教授 フィリピン研究)

b グループ「イスラームと経済開発」

清水 学

(グループ代表 宇都宮大学国際学部教授 西アジア経済論)

長沢 栄治

(東京大学東洋文化研究所教授 近代エジプト社会経済史)

鳥居 高

(明治大学商学部助教授 東南アジア経済)

c グループ「イスラームと民衆運動」

赤堀 雅幸

(グループ代表 上智大学外国語学部助教授 文化人類学)

東長 靖

(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科助教授 イスラーム思想)

堀川 徹

(京都外国語大学外国語学部教授 西南アジア史)

研究班 3 「イスラームと民族・地域性」

代表 加藤 博

(一橋大学大学院経済学研究科教授 中東社会経済史)

a グループ「イスラーム的イデオロギーの生産過程に関する研究」

加藤 博

(グループ代表 一橋大学大学院経済学研究科教授
中東社会経済史)

石井 正子

(国立民族学博物館地域研究企画交流センター中核的
研究機関研究員 フィリピン研究)

新免 康

(中央大学文学部教授 中央アジア史)

b グループ「イスラームのイデオロギー生産による摩擦に関する研究」

大塚 和夫

(グループ代表 東京都立大学人文学部助教授 社会
人類学、中東民族誌学)

山岸 智子

(明治大学政治経済学部専任講師 イラン地域研究)

内藤 正典

(一橋大学大学院社会学研究科教授 現代トルコの政
治と社会)

c グループ「現代イスラーム資料の収集と研究」

臼杵 陽

(グループ代表 国立民族学博物館地域研究企画交流
センター助教授 中東現代史)

岡 真理

(大阪女子大学人文社会学部専任講師 現代アラブ文
学)

帯谷 知可

(国立民族学博物館地域研究企画交流センター助手
中央アジア近現代史)

研究班4 「地理情報システムによるイスラーム地域研究」

代表 岡部 篤行

(東京大学大学院工学系研究科教授 空間情報科学)

浅見 泰司

(東京大学大学院工学系研究科助教授 都市工学)

水島 司

(東京大学大学院人文社会学系研究科教授 南アジア社
会経済史)

研究班5 「イスラームの歴史と文化」

代表 羽田 正

(東京大学東洋文化研究所教授 イラン史)

a グループ「芸術と学問の展開」

榊屋 友子

(グループ代表 東京大学東洋文化研究所助教授 イ
スラーム美術史)

ヤマンラール水野美奈子

(東亜大学大学院総合学術研究科教授 トルコ・イス
ラーム美術史)

森本 一夫

(東京大学東洋文化研究所助手 イラン史、サイド
・シャリーフ史)

b グループ「地域間交流史の諸相」

羽田 正

(グループ代表 東京大学東洋文化研究所教授 イラ
ン史)

深沢 克己

(東京大学大学院人文社会学系研究科教授 近世ヨー
ロッパ港湾都市史)

黒木 英充

(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助
教授 シリア・レバノン近現代史)

c グループ「比較史の可能性」

三浦 徹

(グループ代表 お茶の水女子大学文教育学部教授
アラブ・イスラーム社会史)

岸本 美緒

(東京大学大学院人文社会学系研究科教授 中国明清史)

関本 照夫

(東京大学東洋文化研究所教授 東南アジア社会人類
学)

研究班6 「イスラーム関係史料の収集と研究」

代表 北村 甫

(財団法人東洋文庫理事長 チベット言語学)

林 佳世子

(グループ代表 東京外国語大学外国語学部助教授
オスマン朝史)

近藤 信彰

(東京都立大学人文学部助手 イラン近代史)

谷口 淳一

(京都女子大学文学部助教授 イスラーム時代の西ア
ジア社会)

保坂 修司

(財団法人中東調査会研究員 湾岸の政治・宗教)

7. 日本学術振興会特別研究員名簿 (2000 年度)

日本人研究者：

- ・下山伴子 (東京大学大学院人文社会系研究科・研究班 1 12 世紀イランにおける宗教勢力)
- ・岩崎えり奈 (一橋大学大学院経済学研究科・研究班 3 テュニジア南部タタウィーン of 農村における出稼ぎに関する事例研究)
- ・新井勇治 (東京大学大学院工学系研究科・研究班 4 中東地域における都市空間の構成原理に関する研究)

外国人研究者：

- ・Rahal Boubrik (研究班 2 モーリタニアの宗教勢力と政治権力の相互関係についての研究)
- ・Muhammad Sabri Muhammad Yusuf (ヘルワン大学文学部専任講師・研究班 2 オスマン期エジプトの知と思想:1517-1798 年)
- ・Brigitte Marino (ダマスカス・フランス・アラブ学研究所研究員・研究班 5 オスマン時代のシリアにおける都市領域)

8. 研究会活動・刊行物一覧

1999 年度研究会活動一覧

総括班

1999.4.17 情報システム機器利用講習会 (東京大学文学部アネックス) 概要：マイクロフィルム資料のデジタル化装置の利用法

1999.4.20 総括班講演会「イスラエルにおける中東研究」(東洋文庫) 講演者：E.トレダノ教授 (テル・アヴィヴ大学)「イスラエルにおける中東研究」

1999.6.17 地理情報システム Arc View の利用説明会 (東京大学文学部アネックス)

1999.7.10 全体集会 (アジア経済研究所 9 階国際会議場) シンポジウム「地域研究の現状とイスラーム研究の位置」／発表者：栗本英世 (アフリカ)；佐藤宏 (インド)；白石隆 (東南アジア)；村田雄二郎 (中国)／討論者：長沢栄治；白杵陽；飯塚正

人／座長：大塚和夫

1999.10.8-10 国際シンポジウム Beyond the Border : A New Framework for Understanding the Dynamism of Muslim Societies (国立京都国際会議場) 主題：境界を越えて—ムスリム社会のダイナミズムを理解するための新しい枠組み <<Session 1 : The Concept of Territory in Islamic Law and Thought>> <<Session 1-1: Dar al-Islam as an Ideology> Brannon WHEELER "The Islamic Utopia: From Dar al-Hijra to Dar al-Islam" ; Michael LECKER "On the Burial of Martyrs" ; Haideh GHOMI "The Concept of Dar al-Islam in Sufism: Special Reference to Molana Jalal ed-Din Rumi" <Session 1-2: Conception of Territory in Islamic History> Elmostafa REZRAZI "The Iqlim and

Political Identities as Established in Islamic Tradition" ; YANAGIHASHI Hiroyuki "Solidarity in an Islamic Society: 'Asaba, Family, and the Community" ; OKUDA Atsushi "Two Realities in Dar al-Islam in Syria: The Reception as Ijtihad" <Session 1-3: From Dar al-Islam to the Modern Conception of Territory> Tetz ROOKE "Colonial Borders Versus Natural Frontiers: History Writing in Syria After the First World War" ; Iik Arifin MANSURNOOR "The Impact of Territorial Expansion and Contraction in the Malay Traditional Polity on Contemporary Thought and Administration" ; Eugenia KERMELI-UNAL "Custom Versus Theory: Ebu's Su'ud's Effort to Consolidate Shariah with the Ottoman Kanun on Land and Its Impact on Crete" <Session 1-4: Muslims in the Face of Dar al-Harb> OHTA Keiko "Migration and Islamization in the Early Islamic Period: The Arab-Byzantine Border Area" ; NAKAMURA Taeko "Territorial Disputes Between Syrian Cities and the Early Crusaders: The Struggle for Economic and Political Dominance" ; Hamidullah BOLTABOEV "Dynamism of the Notion of Dar al-Islam in Central Asia" ; Stéphane DUDOIGNON "Beyond the Northern Border: An Appeal for a Global History of the Siberian Muslimhood" <<Session 2: The Influence of Human Mobility>> <Session 2-1: Human Mobility in History, Part One> MORIMOTO Kazuo "Diffusion of the Naqibship of the Talibids: A Study on the Early Dispersal of Sayyids" ; Yaacov LEV "Turks in the Political and Military Life of Eleventh-Century Egypt and Syria" ; Taef Kamal EL-AZHARI "Human Mobility During the Crusades, As Seen in the Writing of Ibn al-Athir 555-630 A.H.;1160-1233 A.D." <Session 2-2: Human Mobility in History, Part Two> Ibrahim JADLA "Al Sudan (Blacks) in Ifriqiya (Tunisia) in the Middle Ages" ; KUROKI Hidemitsu "The Mobility of Non-Muslims in

Mid-Nineteenth-Century Aleppo" ; Meruert ABUSEITOVA "The Spread of Islam from Central Asia into Kazakhstan (16th-17th Centuries)" <Session 2-3: Human Mobility and Information> Stefka PARVEVA "Human Mobility and Transmission of Information in the Ottoman Empire (17th-18th Centuries)" ; Lilia LABIDI "Dynamics of Change in the Medical Sector in the Islamic World" ; Makhsuma NIYAZOVA "Kubachi Silversmiths in Bukhara" ; ASAMI Yasushi, Ayşe Sema KUBAT, İsmail İSTEK "Characterization of the Street Networks in the Turkish-Islamic Urban Form" <Session 2-4: Human Mobility and Political Process> Mohammed BOUDOUDOU "Great Transformation" of Maghreb Societies and the Constitution of International Maghreb Migratory Processes" ; KURITA Yoshiko "The Significance of Emigration ('Hijra') in Modern Sudanese History" ; Nilüfer NARLI "Urbanisation, Structural Changes, and the Rise of Political Islam in Turkey" <Session 2-5: Human Mobility Beyond the Borders Established by Powers> OISHI Takashi "Friction and Rivalry over the Pious Mobility: British Colonial Management of the Hajj and Its Reaction Among Indian Muslims, 1870 to 1920" ; John SCHOEBERLEIN "Islam on the Hoof: The Nomadic Margin of the Islamic World in Central Asia" ; Alain ROUSSILLON "Remaining Oneself Beyond the Borders: Identity and Travel in the Colonial and Post-Colonial Division of the World" ; Dale EICKELMAN "Blurred Boundaries: Travel, New Media and the Emerging Public Sphere in Contemporary Muslim Societies" <<Session 3: A City of Interactions: Jerusalem>> <Session 3-1: Co-existence and Disputes> Yasir SULEIMAN "Sociolinguistic Reflexes of Political Conflict: The Case of Jerusalem" ; Michael DUMPER "Muslim Institutions and the Political Process: The Palestinian

- Waqf and the Struggle Over Jerusalem, 1967-1997" ; FUJITA Susumu "Conflict and Ties in Jerusalem, A City of Many Peoples" ; USUKI Akira "Jerusalem in the Mind of the Japanese" <Session 3-2: The Middle East Peace Process and Jerusalem> Geris KHOURY "A Possibility of Coexistence Among the Three Faiths in Jerusalem" ; Ann LESCH " "My" Jerusalem or "Our" Jerusalem: Can Alternative Futures Be Envisioned ?" ; IKEDA Akifumi "Changes in Jerusalem Since the 1960s" ; TATEYAMA Ryoji "Ideas and Options for Addressing the Question of Jerusalem"
- 2000.1.29 公開講演会「イスラームと女性：他文化理解の視点」(大阪女子大学女性学研究センターとの共催)(大阪女子大学 70 周年記念ホール) 報告：佐藤次高「イスラーム史のなかの女性：エジプトの女性スルタン」；岡真理「イスラームと女性：多元的理解への視座」／パネルディスカッション「イスラームと女性：他文化理解の視点」／パネリスト：佐藤次高；桜井啓子；岩崎えり奈／司会：岡真理
- 2000.3.4 日本・エジプト若手研究者学術交流会(東京大学文学部教官談話室) 主催者挨拶：佐藤次高／趣旨説明：飯塚正人／報告：ディア・ラシュワーン「エジプトにおけるイスラーム主義の現状」；アイマン・アブドゥルワッハブ「アラブ世界における市民主義、民主主義」；ホサーム・アター「中東政治における現代エジプト文化の新しい役割」；アブドッサラーム・アリー・ノウェイル「エジプトの政治文化」
- Organization) and Islamic Factors in Central Asian Politics"
- 1999.5.23 c グループ 第 1 回研究会(東京大学文学部アネックス) 報告：柳橋博之「古典イスラーム家族法一俯瞰の試み」／コメンテーター：森正美
- 1999.7.11 第 7 回中央アジア研究セミナー(東京大学山上会館) 講師：Lavrenty Dedyunovitch SONG「中央アジアとカザフスタンの現在の政治・社会的発展段階における映画とテレビジョンの状況」／上映作品：「トルコ風の結婚式」37 分 1992 年撮影 1996 年完成；「音楽の先生」39 分 1998 年完成
- 1999.7.14 a グループ 論点研究会(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科) 報告：アッザーム・タミーミー「イスラームにおける人権」
- 1999.7.17 a グループ 地域研究会(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科) 報告：アッザーム・タミーミー「イスラームと民主主義—ヨルダンとムスリム同胞団の経験から」* この報告は Working Paper Series, No.18 として刊行された。
- 1999.9.25 c グループ 第 2 回研究会(京都文教大学人間学部) 報告：湯浅道男「現代ムスリム家族法：インド・パキスタンの事例」；塙陽子「トルコ民法の近代化とイスラーム法」
- 1999.10.13-14 研究班 1 合同研究会・第 8 回中央アジアセミナー "Islam and Politics in Russia and Central Asia (Early 17th- Late 20th Centuries)" (日仏会館 601 会議室)(在日フランス大使館、国際交流基金の後援) <Opening Remarks> Prof. Pierre F. SOUYRI <Panel-I : Community Building in the Russian Dar al-Harb> Chair : YAMAUCHI Masayuki / Christian NOACK "Russian Politics and Its Impact on the Formation of a Muslim Identity in the Volga-Urals (18th - Early 20th Centuries)" / Discussant : OISHI Takashi (Japanese Society for the Promotion of Science, Tokyo) ; Rämil KHÄYRUTDINOV "The Tatar Municipality of Kazan (1781-1855), and the System of National Self-Administration in Autocratic
- 研究班 1 「イスラームの思想と政治」**
- 1999.5.15 b グループ 第 1 回研究会「中央アジアの国際関係」(第 6 回中央アジア研究セミナーと共催)(東京大学文学部アネックス) 報告者：M. Ahsan Maimul Khan "ECO (Economic Cooperation

- Russia" / Discussant : Christian NOACK ; Stéphane A. DUDOIGNON "Status, Strategy, and Discourse of the Muslim "Clergy" under a Christian Law: Polemics about the Collection of the Zakât in Late Imperial Russia" / Discussant : YANAGIHASHI Hiroyuki < panel-II : Towards a Restoration of the Dar al-Islam? State Building in 20th Century Muslim Central Asia > Chair : Thierry Zarcone / KOMATSU Hisao "Bukhârâ-yi Sharîf and Istanbul: A Consideration on the Background of the Munâzara" / Discussant : Hamidulla BOLTABOEV ; UYAMA Tomohiko "Two Attempts at Building a Qazaq State: The Revolt of 1916 and the Alash Movement" / Discussant : Meruert ABUSEITOVA (Nacional'naja Akademijanauk, Almaty) ; SHINMEN Yasushi "Eastern Turkestan Republic (1933-1934) in Historical Perspective" / Discussant : WANG Jianxin < panel-III : The Role of the Religious ('ulamâ) and the Literati (udabâ) > Chair : IIZUKA Masato / Naim KARIMOV "Islam and Politics in the Uzbek Literature of the 20th Century" / Discussant : KOMATSU Hisao ; Thierry ZARCONÉ "The Sufi Networks in Southern Xinjiang during China's Republican Regime (1911-1949)" / Discussant : HAMADA Masami ; Parviz MULLOJONOV "The Role of the Muslim "Clergy" in Tajikistan, since the Collapse of the Soviet Union" / Discussant : TAKAHASHI Kazuo < panel-IV : Contemporary Issues: Islam and Political Mobilization, from Tajikistan to Moscow's Suburbs > Chair : KOSUGI Yasushi / Irina KOSTYUKOVA "Islam in Qyrghyzstan : its Distinctive Roles and Signification for the Individuals, the Society and the State. A Surmountable Precipice ?" / Discussant : YOSHIDA Setsuko ; John SCHOEBERLEIN "Islam in the Ferghana Valley : Challenges for New States" / Discussant : Thierry ZARCONÉ ; Râfyq MÖHÄMMÄTSHIN "Official and Non-Official Islam in Tatarstan, in the 1990s" / Discussant : Rafis ABAZOV ; Alexei MALASHENKO "The Muslim Community of the Russian Society: Politics and Ideology" / Discussant : John SCHOEBERLEIN < General Discussion and Conclusion > Chair : KOMATSU Hisao
- 1999.11.6 研究班1・研究班6合同研究会「デジタル情報化時代の研究作法」(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)報告:赤堀雅幸「窓の中技・小技— Windows 環境での論文作成効率向上をめざして」;林佳世子「Mac 多言語環境下の研究技法」;保坂修司「HTML による学術論文の技法」/座談会「快適な研究環境を構築するために」赤堀雅幸・林佳世子・保坂修司・小杉泰(司会)*この記録は、『地域研究スペクトラム』4号に掲載。
- 1999.12.7 第9回中央アジア研究セミナー(東京大学文学部アネックス)報告:バフティヤール・ババジャノフ"The Great Schism" among the Moslems of Ferghana Valley"
- 2000.1.17 a グループ・イスラーム世界研究懇話会共催研究会(京都大学文学部)報告:Dr. Robert M. GLEAVE「シーア派イスラーム法学とモダンティ」
- 2000.1.22 a グループ 地域研究会(東京大学文学部アネックス)報告:松本ますみ『月華』と『マナール』—中国におけるイスラーム新文化運動
- 2000.1.28-29 研究班1合同研究会「宗教と政治」(日本貿易振興会アジア経済研究所)報告:沢江史子「福祉党から美徳党へ:言語のリベラル化と今後の展望」;牧野久美子「南アフリカ:オランダ改革派教会、国民党、アパルトヘイト」;川村晃一「インドネシアにおけるイスラーム政党」;水島治郎「十字架と権力:ヨーロッパのキリスト教民主主義の成立と展開」;小杉泰「イスラーム政治、イスラーム政党:概念と実態」/討論者:石田憲;臼杵陽
- 2000.2.5 b グループ 第2回研究会「中央アジアにおける国際関係とイスラーム」・第10回中央アジア研究セミナー・中央アジア研究会第49回例会(東

- 京大学文学部アネックス) 報告: 宇山智彦「ウズベク・イスラーム運動の源流と過激化: その内政的・国際的背景」; Nail' Mukharyamov 「タタリスタン共和国におけるイスラーム: 若干の比較的観察」(ロシア語); 坂井弘紀「中央アジアにおける『語り』の現状」; 岩崎一郎「トルクメニスタンのポスト社会主義産業体制」; 輪島実樹「カスピ海周辺諸国の石油・ガス輸送をめぐる国際関係」
- 2000.2.19 c グループ 第3回研究会(東京大学文学部アネックス) 報告: 森正美「フィリピン・ムスリムの婚姻--ムスリム身分法典を中心に--」; 多和田裕司「マレーシアにおけるイスラーム家族法の概要」
- 2000.2.19 a グループ 思想家・地域研究会(東京大学文学部アネックス) 報告: 中西久枝「ジャアファリーの思想について」; 粕谷元「トルコにおけるナクシュバンディー教団: イスラーム潮流の母体として」
- 2000.2.26 研究班1・研究班2 共催ワークショップ(上智大学四谷キャンパス図書館) 報告: 小林寧子; マスダル・マスウディー/コメンテーター: 見市建; モジュタバ=サドリア
- 2000.2.26 第11回中央アジア研究セミナー(東京大学文学部アネックス) 報告: Dr. Anara TABYSHALIEVA "Conflict Prevention in the Ferghana Valley"
- 2000.2.28 研究班1・研究班2 共催講演会(東京大学文学部アネックス) 報告: マスダル・マスウディー「イスラームからみた女性の性と生殖の権利」
- 2000.3.7 a グループ 地域研究会(東京大学法文1号館) 報告: ハルン・アナイ "The Debates between Turkish Nationalists and Turkish Islamists" ; 岩崎葉子「イランの流通システム」; 鳥居高(明治大学)「マレーシアの経済危機と政治運動」
- 1999.7.2 c グループ 第1回「イスラームと衣の文化」研究会(上智大学四ッ谷キャンパス) 報告: 中山紀子「トルコのスカーフ素描」; 西尾ふみ「日本人改宗ムスリムにおけるヴェールの意味」
- 1999.7.24 b グループ 第2回「イスラーム世界の経済構造と変動」研究会(明治大学和泉校舎) 報告: 田巻松雄「ミンダナオ島の和平問題と国際援助の動向」; 水島多喜男「『イスラーム経済』と『資本主義』」
- 1999.8.27 c グループ 「聖者信仰・スーフィズム・タリーカ」研究会(上智大学四ッ谷キャンパス) 報告: Pablo Beneito "An Unknown Follower of Ibn 'Arabi: The Author of *Lata' if al-I 'lam* and his Works"; 子島進 "Pir, Waiz and Imam: Religious Leadership among the Ismailis in Pakistan."
- 1999.9.4 a グループ 第2回「東南アジアのイスラーム書評研究会」(上智大学四ッ谷キャンパス) テーマ: Harry J. Benda, *The Crescent and the Rising Sun: Indonesian Islam under the Japanese Occupation 1942-1945*, W.van Hoeve Ltd., The Hague and Bandung, 1958. / 評者: 青木葉子/ディスカサント: 小林寧子
- 1999.9.13-14 c グループ 「聖者信仰・スーフィズム・タリーカをめぐる研究合宿」(大学セミナーハウス内国際セミナー館) 内容: <読書会>テキスト: A. Popovic et G. Veinstein (eds.), *Les Voies d'Allah: Les ordres mystiques dans le monde musulman des origines à aujourd'hui*, Paris: Fayard, 1996. 第3部 第1章教団組織のあり方 報告: 下山伴子; 第3部 第2章前半教読書会報告団の物質的側面及び経済的役割(前近代) 報告: 高橋圭; 第3部 第2章後半教団の物質的側面及び経済的役割(近現代) 報告: 大坪玲子; 第3部 第4章スーフィーと現世の権力 報告: 渋谷努 <研究発表> ジュマリ・アラム「カリスマの儀礼と空間—インドネシアのタ

研究班2「イスラームの社会と経済」

- 1999.6.19 b グループ 第1回「イスラーム世界の経済構造と変動」研究会(明治大学和泉校舎) 報告

- リーカ集団を事例に一」／コメント：石澤武；竹下政孝「ヌブーフとワラーヤーフイズムの聖者理論」；安藤潤一郎「中国ムスリム少数民族に於けるスーフイー教派と 国家統一 1910～1950 年代の回族を中心に」／コメント：黒岩高；森山央朗『『ニーシャーフール史』の人物類型』／コメント：清水和裕
- 1999.10.16 c グループ「聖者信仰・スーフイズム・タリーカ研究会」（イスラーム世界研究懇話会第3回例会との共催）（京都大学文学部）報告：濱田正美「中央アジアにおける聖者崇拜」；Thierry Zarcone “Religious Syncretism in Contemporary Central Asia: How Sufism and Shamanism Interweave”
- 1999.11.27-28 国際ワークショップ「イスラーム地域の民主化と民衆運動」（かずさアカデミアホール）プログラム：〈Opening Address〉Masatoshi KISAICHI 〈Keynote Address〉Yasushi HAZAMA “Democratization and Social Movements in Islamic Countries” / Chairperson: Takashi TORII ; Boutheina CHERIET, “Youth, State Reproduction and Cultural Reproduction in Algeria: Whither Democracy?” / Chairperson: Masatoshi KISAICHI ; Yoshiko KURITA, “The Prospect of Democratization in the Middle East: the Case of Egypt and Sudan” / Chairperson: Yasushi TOHNAGA ; Sayd Farid ALATAS, “Democratization, Civil Society and Islam in Indonesia and Malaysia” / Chairperson: Takashi TORII ; Kosuke MIZUNO, “Democratization and Labor Movement in Indonesia” / Chairperson: Manabu SHIMIZU 〈Presentation from Commentators〉 Chairperson: Masayuki AKAHORI / Yasuhito ASAMI ; Midori KAWASHIMA ; Akira USUKI 〈General Discussion〉 Chairpersons: Masayuki AKAHORI, Takashi TORII, Masatoshi KISAICHI
- 1999.12.4 c グループ「聖者信仰・スーフイズム・タリーカ研究会」（上智大学）報告：竹下政孝「イスラームにおける聖者概念」；寺戸淳子「キリスト教における聖者概念」；坂本要「仏教など日本の在来信仰における聖概念」
- 2000.1.14 c グループ「イスラームと衣の文化の研究会」（上智大学図書館）報告：佐藤規子「パキスタンにおける女性とヴェール」；吉枝聡子「イランの服装文化の一面」
- 2000.1.22 b グループ 第3回研究会（法政大学市ヶ谷校舎）報告：岡野内正「市場論への接近：シリアにおける奴隷、不自由労働者、賃金労働者」；米倉等「参加型開発：インドネシア小規模灌漑の事例」
- 2000.2.12 c グループ「聖者信仰・スーフイズム・タリーカをめぐる研究会」（東京大学文学部アネックス）報告：大塚和夫「マウリドの人類学またはマウリドと人類学」；菅原純「ホタンのアブドゥラフマン伝説について：19-20 世紀東トルキスタンにおける『伝承』の一事例」
- 2000.2.26 2班ワークショップ「インドネシアにおけるイスラームと社会開発・民主主義」（1班と共催）（上智大学四谷キャンパス）報告：小林寧子；マスダル・マスウーディー／コメント：見市建；中田考
- 2000.2.28 2班マスダル・マスウーディー氏講演会（1班と共催）（東京大学文学部アネックス）演題：「イスラームからみた女性の性と生殖の権利」
- ### 研究班3「イスラームと民族・地域性」
- 1999.5.12 研究班3 研究会（明治大学「スタッフセミナー」との共催）（明治大学駿河台キャンパス大会館）講演者：アシュラフ・ボルージェルディー「イスラームと女性—理念とイランの政策について—」通訳：山岸智子／前説：中田考
- 1999.5.17 研究班3班・NIRA（総合研究開発機構）合同研究会（NIRA との共催、開催担当者：加藤博）（一橋大学）報告：Dato' Dr. Ismail bin Haji Ibrahim “True and False Images of Islam in Cultural Frictions:

Feminism and Education"

- 1999.6.1 Dale Eickelman 氏講演会（国立民族学博物館地域研究企画交流センター・東京都立大学人文学部連携研究「イスラーム復興の諸側面」との共催）（東京都立大学国際交流会館） タイトル："Authority, Education, and the New Media: Changing Ideas of Text in the Islamic Tradition." / コメントーター：鈴木董；大塚和夫
- 1999.6.11 合同シンポジウム「二言語主義、言語干渉、植民地主義」（国立民族学博物館地域研究企画交流センター・東京大学東洋文化研究所・東北大学国際文化研究科連携研究「西アジア地域の政治経済社会変容」・TEAS との共催）（国立民族学博物館地域研究企画交流センター） 発表：ジョン・E・フィリップス「ハウサの植民地化」；中川恵「フランコフォンとモロッコ政治への影響」；エルモスタファ・レズラズィ「ポストコロニアル時代とイスラーム運動：言語のイスラーム化戦略」；ロバート・サンダース「台湾における日本と中国の言語政策：1895 - 1955」；マフディ・エルマンジェラ「ポスト言語学とポストコロニアリズム」
- 1999.6.12 a グループ「ムスリム・アイデンティティ研究会」（国立民族学博物館地域研究企画交流センター連携研究「メディアに見るイスラーム女性の実像と虚像」との共催）（一橋大学）報告：斎藤修「歴史のなかの児童労働」
- 1999.7.3 a グループ「ムスリム・アイデンティティ研究会」（国立民族学博物館地域研究企画交流センター連携研究「メディアに見るイスラーム女性の実像と虚像」との共催）（一橋大学）報告：平井文子「開発とジェンダー」
- 1999.7.3-4 b グループ「ファンダメンタリズムー宗教的と世俗的と」（地域研究企画交流センター・都立大人文学部連携研究「イスラーム復興の諸側面ー地域間の比較研究ー」との共催）（東京都立大学国際交流会館）趣旨説明：大塚和夫 発表：飯塚正人「ファンダメンタリズムとイスラーム」；井上順孝「固有文化」の創出とファンダメンタリズム」；鶴飼哲「現代フランス思想におけるイスラーム」
- 1999.7.17 a グループ「ムスリム・アイデンティティ研究会」（国立民族学博物館地域研究企画交流センター・一橋大学連携研究「メディアに見るイスラーム女性の実像と虚像」との共催）（一橋大学）報告：Dr. Golnar Mehran「中東における女子教育：イランを事例に」
- 1999.7.17 c グループ「記憶とエクリチュール」研究会（東京大学文学部アネックス）報告：岩崎稔「イスラエルにおけるメモリー・インダストリー：James Young "The Texture of Memory"を中心に」 コメントーター：臼杵陽「イスラエルの政治神話の創出とミズラヒーム」；岡真理「対抗的記憶の物語タイムの繁る丘と Deir Yassin Remembered」
- 1999.11.20 a グループ「ムスリム・アイデンティティ研究会」（国立民族学博物館地域研究企画交流センター・一橋大学連携研究「メディアに見るイスラーム女性の実像と虚像」との共催）（一橋大学）発表：奥村みさ「マレーシアの女性誌にみるマレー系女性と華人系女性の審美観の比較」
- 1999.11.25 b グループ講演会「音楽表現における越境ー民族を超える音楽は可能か」（一橋大学）演者：レヴェント・アスラン（アムステルダム・アスラン音楽院院長）
- 2000.2.9 c グループ「マイケル・コーヘン教授講演会」（「イスラーム世界研究懇話会」との共催）（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）タイトル："Britain, Palestine and the Middle East in the Age of Appeasement, 1935-1945."
- 2000.2.12 c グループ研究会（如水会館）報告者：マイケル・コーヘン「イスラエル問題をめぐるトルーマン政権とアイゼンハワー政権の比較 1945-56年」
- 2000.3.2 c グループ「アフマド・シター教授講演会」（「イスラーム世界研究懇話会」との共催）（国立民族学博物館）報告：アフマド・シター "Towards

an International Law Integrated Settlement of Jerusalem Question: An Arab Perspective"

2000.3.3 b グループ研究会「ヨーロッパにおけるムスリムと文化摩擦—ビデオ上映と研究発表」（国立民族学博物館地域研究企画交流センター・東京都立大学人文学部連携研究「イスラーム復興の諸側面—地域間の比較研究—」との共催）（東京都立大学国際交流会館）発表：内藤正典「なぜムスリム移民たちはヨーロッパで覚醒するか」；三島憲一「ドイツのイスラーム表象の諸問題」；ビデオ上映「ヨーロッパのムスリム移民の世界」

2000.3.14 b グループ研究会「イスラーム化の文化的脈略」（国立民族学博物館地域研究企画交流センター・東京都立大学人文学部連携研究「イスラーム復興の諸側面—地域間の比較研究—」との共催）（東京都立大学国際交流会館）発表：菊地滋夫「イスラーム化のフロンティア—スワヒリ・コースト後背地からの報告」；岡本眞佐子「トルコにおける福祉党の文化政策とイスラーム」

研究班 4 「地理情報システムによるイスラーム地域研究」

大域地域分析グループ 歴史地理情報処理研究会（東京大学法文 2 号館）南インド・ボンネリ地域の LANDSAT TM 画像を用いた、土地被覆データを作成するための基礎的作業と分析結果の議論。また、同地域の歴史資料のうち、1801 年のザミンダーリー制実施時点の村落統計と 1850 年代土地台帳の村落センサスから作成された地図のデジタル化、分析（第 16 回～ 23 回：1999/5/13, 1999/6/15, 1999/7/8, 1999/8/2, 1999/10/13, 1999/11/8, 1999/12/10, 2000/1/21, 2/8 計 9 回）

小域地域分析グループ トルコ都市研究会（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻）（第 1～7 回：1999/4/22, 6/10, 7/15, 9/28, 12/9, 2000/1/14, 2/8 計 7 回）

2000/1/14 グループセミナー（第 7 回小域地域分析グループ研究会と共催）（東京大学工学部 14 号館 8 階 802 号室）スピーカー：Necdet Teymur, "Cities as Education - Learning from Cities (& from Disasters)"

研究班 5 「イスラームの歴史と文化」

1999.4.9 b グループ「国際商業史研究会」David Gordon Kirby 教授講演会（東京大学文学部法文 1 号館）講演：David Gordon Kirby, "Patterns of Trade in the Baltic"

1999.4.10 c グループ 第 1 回「回儒の著作研究会」（東京大学文学部アネックス）テキスト：劉智『天方性理』発表・翻訳担当：岸本美緒「例言」；安藤潤一郎「自序」；鈴木弘一郎「本経第 1 章、図伝第 1 章第 1 節」

1999.5.1 a グループ 第 5 回「サライ・アルバム研究会」（東京大学東洋文化研究所）報告：ヤマンラール水野美奈子「トルコ出張報告」「観音扉式玉座像の系譜」

1999.5.14 b グループ第 7 回「国際商業史研究会」例会（東京大学文学部法文 2 号館）報告：井上光子「17-18 世紀のデンマーク史におけるズンド（エアソン）海峡通行税」；高松洋一「国際商業に関するオスマン朝の文書・記録史料（16-19 世紀初頭を中心に）」

1999.5.22 c グループ 第 2 回「回儒の著作研究会」（東京大学文学部アネックス）テキスト：『天方性理』発表・翻訳担当：鈴木弘一郎「図伝第 1 章第 2 節」；松下道信「図伝第 1 章第 3 節」

1999.5.22 a グループ 第 1 回「中東の都市空間と建築文化」研究会（東京大学東洋文化研究所）報告：三宅理一「コプトおよびアルメニア建築史から」；山下王世「トルコ・イスラーム建築史から」；高橋忠久「トルコの職人史から」；鶴田佳子「トルコの商業空間研究から」；太記祐一「ビザンツ建築史から」；岡田保良「古代オリエント建築史から」；

- 新井勇治「アラブ・イスラーム都市史から」；ソレマニエ貴実也「イラン・イスラーム住宅史から」；榊屋友子「イスラーム美術史から」；山田幸正「カイロ、ヴェトナム、日本の建築調査から」；羽田正「歴史学と建築史学」
- 1999.6.26 c グループ 比較史研究会第1回研究会「所有をめぐる比較の試み」(東京大学東洋文化研究所) 報告：杉島敬志「所有をめぐる歴史のもつれあい：アジア・太平洋地域における土地所有を中心に」；柳橋博之「イスラーム私法における所有権概念：占有、所有、庇護関係」；岸本美緒「土地を売ること、人を売ること：中国における「所有」の観念」
- 1999.6.27 b グループ 第1回「地域間交流史の諸相」研究会(東京大学東洋文化研究所) 報告：羽田正「『地域間交流史の諸相』研究会のめざすもの」；藤井真理「18世紀セネガルのフランス人居留地－黒人奴隷取引のための河川交通を中心に－」；黒木英充「ナポレオンのエジプト遠征期のアレクサンダー・オスマン・フランス資料が語る地域間交流・摩擦の断面－」
- 1999.7.3 a グループ 第1回「知識と社会」研究会(東京大学東洋文化研究所) 報告：佐藤健太郎「『新奇』な祝祭～マグリブ・アンダルスにおける預言者のマウリド導入をめぐる議論」
- 1999.7.3 c グループ 第3回「回儒の著作研究会」(東京大学文学部アネックス) テキスト：『天方性理』発表・翻訳担当：松下道信「図伝第1章第4節」、青木隆「図伝第1章第5節」
- 1999.7.10 b グループ 「イスラーム圏における国際関係の歴史的展開－オスマン帝国を中心に－」1999年度第2回研究会(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクトと共催)(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 報告：堀川徹「16世紀中央アジアの巡礼とオスマン帝国」；松井真子「オスマン帝国と『自由貿易』－19世紀前半における関税政策の検討」
- 1999.7.17 a グループ 第6回「サライ・アルバム研究会」(東京大学東洋文化研究所) 報告：小林一枝「サライ・アルバム H.2153に見られる顔面石及び合成獣とその系譜」；村野浩「シナの玉座：イルハーン朝絵画に現れる玉座のかたちになんで」；杉村棟「サライ・アルバムの花鳥画」
- 1999.9.25 c グループ 第4回「回儒の著作研究会」(東京大学文学部アネックス) テキスト：『天方性理』発表・翻訳担当：小島毅「図伝第1章第6節」
- 1999.10.16 a グループ 第2回「中東の都市空間と建築文化」研究会(東京大学東洋文化研究所) 主題：建築とパトロン、報告：柏木裕之「ラメセス2世の建築」；林佳世子「メフメト2世の建設活動」；内田慶造「オスマンの建築書にみるパトロン像」
- 1999.10.17 c グループ 比較史研究会第2回研究会「契約：神・共同体・個人」(東京大学東洋文化研究所) 報告：高見澤磨「中国において典型的な契約とはいかなるものか－近現代法導入の局面において」；西尾寛治「ムラユ世界における君臣間の「誓約」："スジャラ・ムラユ"などムラユ語文献の分析から」；岩武昭男「イスラーム世界における契約の理論と実態」
- 1999.10.30 a グループ 第2回「知識と社会」研究会(東京大学東洋文化研究所) 報告：阿久津正幸「知識の伝達とイスラーム諸学問の相対的關係：アレクポのマドラサを舞台にして」
- 1999.10.30 b グループ 「イスラーム圏における国際関係の歴史的展開－オスマン帝国を中心に－」1999年度第3回研究会(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクトと共催)(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 報告：野坂潤子「帝政ロシア支配下のカフカス社会－1910年～11年のN.M.レインケ調査報告にみる法と裁判－」；佐原徹哉「タンズィマート期のバルカンにおける都市行政評議会」
- 1999.11.6 b グループ 第8回「国際商業史研究会」例会(京都府立大学文学部) 報告：亀長洋子「中

- 世ジェノヴァ人の黒海進出に関する諸問題－研究動向と史料－；谷澤毅「近世初頭ライブツィヒの国際商業」
- 1999.11.17 B.Hourcade 氏講演会（東京大学東洋文化研究所）講演者：Bernard Hourcade, "Tehran, the New Identity of a Wrongly Known Capital"
- 1999.11.20 c グループ 第5回「回儒の著作研究会」（東京大学文学部アネックス）テキスト：『天方性理』発表・翻訳担当：小島毅「図伝第1章第7節」
- 1999.12.4 研究班5・6 共催国際ワークショップ「ペルシア語文書研究の可能性」"International Workshop on Persian Archival Sources"（東京大学東洋文化研究所）概要：研究班6 Web ページ参照。
- 1999.12.11 a グループ 第3回「中東の都市空間と建築文化」研究会（東京大学東洋文化研究所）報告：浅見泰司「コンピュータによる地域研究」；百瀬康司「マルチリンガル・データベースへの第1歩」；深見奈緒子「インド・イスラーム建築写真資料のデータベース化」
- 1999.12.11 c グループ 第6回「回儒の著作研究会」（東京大学文学部アネックス）テキスト：『天方性理』発表・翻訳担当：鈴木弘一郎「図伝第1章第8節」報告：佐藤實「劉智『天方性理』の版本について－国内各図書館所蔵本を中心に－」
- 1999.12.18 a グループ 第7回「サライ・アルバム研究会」（東京大学東洋文化研究所）報告：ヤマンラール水野美奈子「第2次トプカプ宮殿美術館調査研究報告」；小柴はるみ「サライ・アルバムに描かれた楽器」；村野浩「シナの玉座：イル・ハーン朝絵画に現れる玉座の形にちなんで」（2）；ヤマンラール水野美奈子「太湖石からサズ葉文様への系譜」（2）
- 1999.12.23 c グループ 比較史研究会第3回研究会「市場経済と資本主義」（東京大学東洋文化研究所）報告：石川登「国際ゴム協定（1934年）と密貿易：ボルネオ西部国境地帯のゴム市場と焼畑農民」；加藤博「再考『市場社会』としてのイスラーム社会」；古田和子「中国における市場、仲介、情報」
- 2000.1.8 b グループ 第2回「地域間交流史の諸相」研究会（東京大学東洋文化研究所）報告：栗山保之「17世紀のハドドラマウト情勢－ザイド派イマームのハドドラマウト遠征を中心に－」；深沢克己「近世フランス港湾都市における商人社会の編成－地域間結合と国際ネットワーク－」
- 2000.1.15-16 a グループ 第7回中近東窯業史研究会（岡山市立オリエント美術館）プログラム：<1月15日> 報告：Dr. Bernard O'KANE "The Development of Cuerda Seca Tileworks" <1月16日> 報告：高橋忠久「アナトリアのやきもの職人、ガーズィーアンテプとイズニックの事例」；岡山市立オリエント美術館寄託柴辻コレクション所蔵のイスラーム・タイルの調査・研究
- 2000.1.19 a グループ 第8回「サライ・アルバム研究会」（東京大学東洋文化研究所）報告：Dr. Bernard O'KANE "Wanderers and Demons: The Jalayirid Connection"
- 2000.1.23 研究班5 全体集会 "Architecture in Islam: Diversity and Tradition"（東京大学東洋文化研究所）報告：陣内秀信 "Amalfi and Arcos - Urban Structure of Mediterranean Cities"；及川清昭 "Dwelling Forms of Fortified Villages - Traditional Houses in Yemen and Morocco"；泉田英雄 "Javanese Acceptance of Islam in Term of Urban Form: Case Study of Lasem, a Port Town on the North Coast of Java"；Dr. Bernard O'KANE, "The Uzbek Architecture of Afghanistan" / コメンテーター：羽田正 / 司会：榊屋友子
- 2000.1.29 a グループ 第3回「知識と社会」研究会（東京大学東洋文化研究所）報告：飯山陽「暴動の真相：シナゴグは何故破壊されたか？」
- 2000.2.5,12,19,26 神奈川県大和市桜丘学習センター公開講座「遙かなるイスラーム世界」（大和市桜丘学習センター）主催：大和市教育委員会（主管）大和市桜丘学習センター / 講演：羽田正「歴史から見たイスラーム世界とヨーロッパ世界」（2/5）；

森本一夫「イランのイスラーム」(2/12)；深見奈緒子「イスラーム世界の都市空間と建築文化」(2/19)；留学生との交流(2/26)

2000.2.11 a グループ 第8回中近東窯業史研究会(岡山市立オリエント美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、長崎県立美術博物館、鴻臚館調査事務所)

2000.3.9-10 c グループ「回儒の著作研究会」合宿(一宮シーサイドオーツカ) 第1部(9日) 1. 翻訳・発表『天方性理』本経第1章 翻訳・発表：鈴木弘一郎；松下道信 2.スライド上映会：西澤治彦「南京回族の調査から」第2部(10日) 1.『真境昭微』(ジャーミー『閃光』の漢訳)の各節の題目とジャーミー『閃光』各節の題目の比定 発表：仁子寿晴 2.『真境昭微』第13～16章 黒岩高；仁子寿晴

研究班6「イスラーム関係史料の収集と研究」

1999.5.29 第1回「オスマン文書研究会」(東京大学文学部アネックス) 発表：高松洋一「オスマン文書研究上の諸問題(総論)」

1999.6.19 第2回「オスマン文書研究会」(東京外国語大学2号館) 発表：大河原知樹「シャリーア法廷文書研究の展望」

1999.7.9 オスマン文書研究会「オスマン帝国資産台帳に関するラウンドテーブル」(東京大学文学部アネックス) 経過報告：林佳世子；高松洋一「オスマン帝国の資産調査」；江川ひかり「資産台帳にみるバルケシルの地方社会」；Mahir AYDIN「ブルガリア・タタルパザルジュウの資産台帳について」

1999.7.6,8,13 オスマン文書研究会主催「オスマン文書講読会」(東京大学東洋文化研究所) 講師：Mahir AYDIN 概要：毎回の講読会は、事前に講読会参加希望者に配布されていたオスマン文書をAYDIN氏が逐一板書し、内容を解説するのを受けて、高松洋一氏がそれを翻訳し、適宜補足説明をくわえる形式ですすめられた。時間的な制約もあ

り、毎回配布文書のすべての解説がおこなわれたわけではないが、それは会終了後、各文書を転写したものを各参加者に配布し、補完された。第1回目の会では、イスタンブールのムフティー局に付設されたシャリーア法廷記録文書館に保管される法廷台帳に控えられた文書の控え、第2・3回目の会では、いずれも総理府オスマン古文書館に保管される文書の講読がおこなわれた。いずれも時期的には19世紀に関する文書・記録史料である。オスマン文書に初めて触れる者にもわかりやすく書体等の説明がなされたほか、タンズィマート期におこなわれた機構改革に伴い生じた文書の様式の変化等が講読を通じて確認された。

1999.7.17 オスマン文書研究会「マーヒル・アイトゥン氏京都講演会」(京都立命館大学清心館) 報告：Mahir AYDIN「アブデュルハミト2世時代の理解をめぐって(英語)」

1999.11.20 第3回「オスマン文書研究会」(東京大学文学部アネックス) 報告：Stefka Parveva, "Sofia Oriental Archives: Structure, Organisation and Possibilities of Research"；清水保尚「オスマン朝における記録史料について」

1999.12.4 ペルシア語文書研究会 国際ワークショップ "International Workshop on Persian Archival Sources" (東京大学東洋文化研究所) 報告：ISOGAI Ken'ichi, "Hanafite waqf theory reflected in waqf deeds from 16th and 17th centuries Bukhara"；Christoph WERNER, "The Winners of Qajar Social Transformation: a Case Study in Landownership"；KONDO Nobuaki, "The Waqf of Ostad `Abbas: The Revision of Deeds in Qajar Tehran"；Mansur SEFATGOL, "Majmu'eha: An Important and Unknown Sources of Historiography of the Last Safavids: the Case of Majumu'e Mirza Moïna"；Hashem RAJABZADE, "Irrigation Examined through Documents of Qajar Iran"；YAMAGUCHI Akihiko, "On the Term 'Resm-i cift' in Ottoman Tax Registers

on Iran" ; Bakhtiyar BABADJANOV , "Uncatalogued Irshad-nama from funds of the Institute for Oriental Studies named after al-Biruni (Tashkent) "

1999.12.9 ペルシア語文書研究会・研究班5・京都大学西南アジア史学研究室共催講演会（京都大学文学部）報告：マンスール・セファトゴル「サファヴィー朝後期（1666-1736）の宗教・社会構造」（ペルシア語:通訳有）；バフティヤール・ババジャーノフ「現代ウズベキスタンのスーフイズムをとりまく諸問題」

1999.12.20 第1回アラビア文字文献データベース連絡会（東洋文庫）出席者：東洋文庫、東京大学東洋文化研究所、東京大学大学院人文社会系イスラム学研究室、東京外国語大学付属図書館、大阪外国語大学付属図書館、京都大学大学院アジアアフリカ地域研究科連環地域論講座、慶応義塾大学東洋史学科、中近東文化センター、アジア経済研究所、国立民族学博物館地域研究企画交流センター、学術情報センターの担当者／議題：（1）趣旨説明（2）各機関の現状報告（3）アラビア文字文献総合データベース計画の今後の進め方について／概要：全国のアラビア文字文献を所蔵する研究機関をつなぐ情報ネットワーク構築をめざして開催された第1回の連絡会では、それぞれの機関の現状が報告された。このなかで、Macintosh上で動くデータベース・フォーマットを完成させている東洋文庫の方式、学術情報センターのNACSIS-CATとつないだ翻字方式入力などが紹介された。東京

外国語大学付属図書館では、アラビア文字と翻字を併存させる方式の研究を行っておりその事例も紹介された。現状はそれぞれの機関が独自に手探りで努力している段階であるが、今後は、作業効率の向上とインターネット上でのアラビア文字文献の総合データベースの公開などを目標に設定し、情報交換を行っていく必要性が確認された。

アラビア語写本史料研究会（京都大学文学部西南アジア史学資料室または京都大学文学部羽田記念館）10世紀イラクの文人ヒラルル・サービー著『カリフ宮廷の儀礼』を輪読回形式で読み進めている。研究会の詳細ならびに訳注は、次のWebページ上で公開されている。<http://ha1.seikyuu.ne.jp/home/tan-jun/>

1999/4/18	第1回研究会	報告：清水和裕
1999/5/22	第2回研究会	報告：村田靖
1999/6/12	第3回研究会	報告：近藤真美
1999/7/4	第4回研究会	報告：矢島洋一
1999/8/1	第5回研究会	報告：沼田敦
1999/8/7	第6回研究会	報告：沼田敦
1999/8/28	第7回研究会	報告：森高久美子
1999/9/11	第8回研究会	報告：谷口淳一
1999/10/3	第9回研究会	報告：清水和裕
1999/10/31	第10回研究会	報告：近藤真美
1999/11/21	第11回研究会	報告：村田靖子
2000/1/22	第12回研究会	報告：矢島洋一
2000/2/5	第13回研究会	報告：谷口淳一
2000/2/20	第14回研究会	報告：清水和裕
2000/3/4	第15回研究会	報告：村田靖子

刊行物一覧(～2000.3)

IAS Series

MIURA Toru and John Edward PHILIPS eds., *Slave Elites in the Middle East and Africa*, London and N. Y., Kegan Paul International, 2000.

Working Paper Series

- No.1 R. Stephen Humphreys, *Tradition and Innovation in the Study of Islamic History: The Evolution of North American Scholarship since 1960*, 1998.
- No.2 R. Stephen Humphreys, *Towards a History of Aleppo and Damascus in the Early Middle Ages, 635-1260. C. E.*, 1998.
- No.3 YANAGIHASHI Hiroyuki, *Islamic Law and the State*, 1998.
- No.4 MIURA Toru and HEMMI Yukiko, *Report on the Present Condition of the Original Sources of the Islamic Area Found in Japanese Institutions*, 1998.
- No.5 Abdeljelil Temimi, *Problématiques et développement de la recherche historique dans le Monde Arabe: Etudes Ottomans et Moriscologie*, 1998.
- No.6 MATSUMOTO Kotaro, *Economic Development among the Hui of Yunnan*, 1998.
- No.7 Stéphane A. Dudoignon, *Communal Solidarity and Social Conflicts in Late 20th Century Central Asia: The Case of the Tajik Civil War*, 1998.
- No.8 TAKAHASHI Kazuo, *U.S.-Japan Relationship over the Persian Gulf*, 1998.
- No.9 Kim Jeong-A, *Al-Bukhalā', Satires by al-Jāhīz*, 1998.
- No.10 Kim Jeong-A, *A Study of al-Bukhalā'*, 1998. (in Arabic)
- No.11 IWASAKI Ichiro, *The Initial Phase of Transition of Russo-Central Asian Economic Relations: An Institutional Approach*, 1999.
- No.12 Hayder Ibrahim Ali, *Civil Society and Democratization in Arab Countries with Special Reference to the Sudan*, 1999.
- No.13 Martin van Bruinessen, *The Kurds and Islam*, 1999.
- No.14 Martin van Bruinessen, *The Kurds in Movement: Migrations, Mobilisations, Communications and the Globalisation of the Kurdish Question*, 1999.
- No.15 Rafis Abazov, *Central Asian Conflicting Legacy and Ethnic Policies: Revisiting a Crises-Zone of the Former USSR*, 1999.
- No.16 MIYAJI Kazuo, *Middle East Studies in Japan*, 1999.
- No.17 OKABE Atsuyuki & MASUYAMA Atsushi, *A Method of Qualitative Trend Curve Analysis and its Application to Land Cover Change in Persian Gulf Area*, 1999.
- No.18 Azzam Tamimi, *Islam and Democracy: Jordan and the Muslim Brotherhood*, 1999.
- No.19 Christoph Werner, *What is a Mujtahid? Functions and Stratification of Tabrizi 'Ulama in the Early Qajar Period*, 1999.

ニューズレター

『イスラーム地域研究ニューズレター』第1号 1997.7.14

『イスラーム地域研究ニューズレター』第2号 1998.7.20

『イスラーム地域研究ニューズレター』第3号 1999.6.25

Islamic Area Studies Newsletter, No.1, September 18, 1997.

Islamic Area Studies Newsletter, No.2, July 25, 1998.

Islamic Area Studies Newsletter, No.3, August 10, 1999.

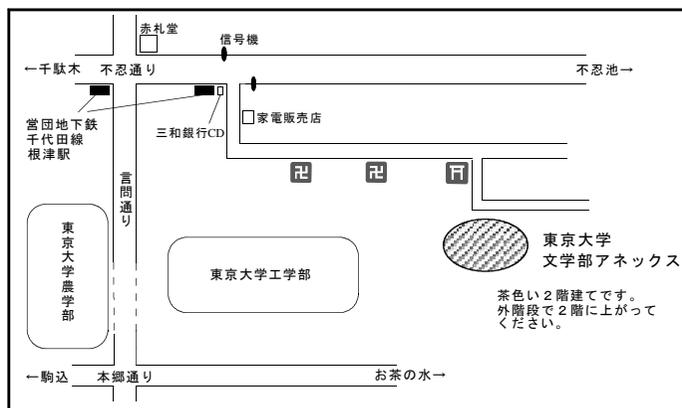
Proceedings Series

第1号『いま、なぜ市民社会なのか：現代イスラーム世界における民主化の再検討』72頁、1999年1月

その他

- ・『イスラーム地域研究 活動の記録 平成9年度』1998.3.31
- ・『イスラーム地域研究 活動の記録 平成10年度』1999.4.1
- ・『イスラーム地域研究 活動の記録 平成11年度』1999.4.30
- ・Islamic Area Studies(パンフレット)
- ・『日本におけるイスラーム地域現地語資料の所蔵および整理状況の調査』59頁、1998年1月
- ・KOSUGI Yasushi, Yusuf H. Ibish, Yusuf K. Khoury eds., *The Index of Al-Manar*, Tokyo - Beirut, 1998, 418 pp.

イスラーム地域研究総括班事務局はこちら



東京大学文学部アネックス2階

営団地下鉄千代田線根津駅より徒歩5分

『イスラーム地域研究ニューズレター』第4号 2000年6月20日発行
発行人：佐藤次高 編集人：柳橋博之
文部省科学研究費創成的基礎研究「イスラーム地域研究」総括班事務局
〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部アネックス
Tel:03-5841-2687 Fax:03-5841-2686 e-mail: i-office@l.u-tokyo.ac.jp
<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/IAS/>